

令和2年度 教育改善報告書

— 効果的かつ効率的な教育活動を目指した点検評価 —

令和3年5月

長野工業高等専門学校
教育改善委員会

令和2年度教育改善報告書 目次

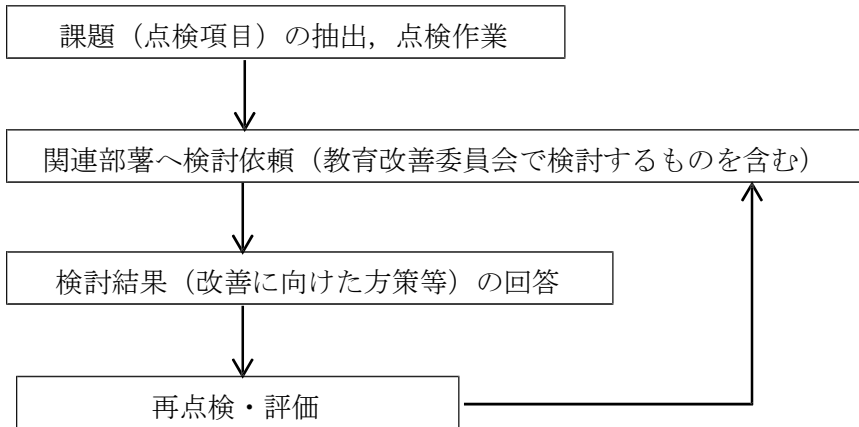
1. 令和2年度教育改善委員会の活動方針	1
1-1 目標	
1-2 点検業務の流れ	
1-3 課題の分類、改善提案	
1-4 今年度の主な活動内容	
2. 令和2年度 各種委員会の活動状況の点検結果	5
2-1 教務委員会	
2-2 学生支援委員会	
2-3 寮務委員会	
2-4 専攻科運営委員会	
2-5 研究支援委員会	
2-6 広報企画室	
2-7 グローバル教育推進センター	
2-8 教育改善委員会	
2-9 男女共同参画推進室	
3. 令和2年度における各種点検報告	41
3-1 高専機関別認証評価結果に対する対応	
3-2 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果	
3-3 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検	
3-4 学生との意見交換会に関する点検	
3-5 令和2年度学生に対する満足度に関するアンケート調査実施報告書の点検と 出された改善点の整理	
3-6 令和2年度参与会で出された改善点の整理	
3-7 実施済研修会の効果の点検およびその改善	
4. 令和2年度 FD 研修会実施報告	55
4-1 令和2年 第1回 FD 研修会（4月14日） 「リアルタイム型授業，オンデマンド型授業，課題配信型授業ほかについて 「遠隔教育の推進」のための講習」	
4-2 令和2年 第2回 FD 研修会（4月21日） 「リアルタイム型授業，オンデマンド型授業，課題配信型授業ほかについて」	
4-3 令和2年 第3回 FD 研修会（9月14日） 「男女共同参画推進に関する意識啓発 なぜ「女性研究者支援」かー信州大学における男女共同参画推進この10年ー」	
4-4 令和2年 第4回 FD 研修会（3月11日） 「英語学習の楽しさを再発見する：EGPとESPの統合を目指して」	
5. 令和3年度の活動に向けた各種委員会等への提言	62
付録	
付録1 教育の質保証のための各種点検・改善システム 案	64
付録2 令和元年度 卒業生および企業等に対するアンケート調査実施結果	78
付録3 令和2年度 学生に対する満足度に関するアンケート調査実施結果	92

1. 令和2年度 教育改善委員会の活動内容

1-1. 目的

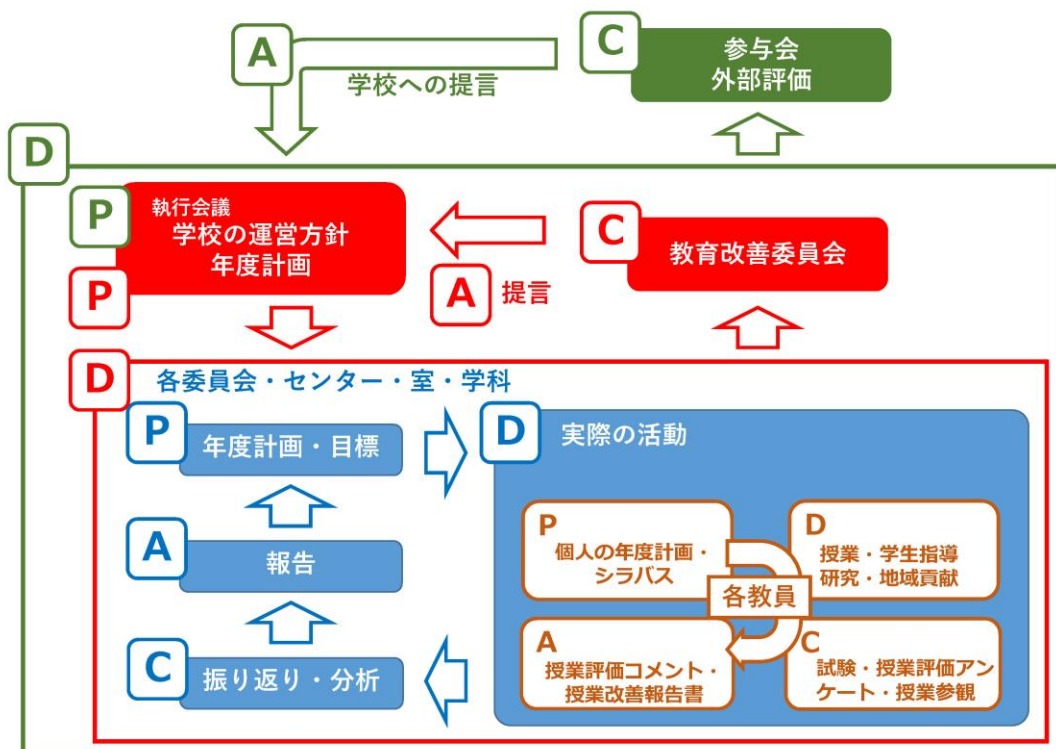
本校の教育システムを点検評価し、教育技術を向上させるための取り組み（FD）を推進し、本校の教育改善に努める。特にPDCAサイクルのA（Action）を重視し、教育改善として次のサイクルにつながる活動を推進する。

1-2. 点検業務の流れ（Check）



3. 課題の分類，改善提案（Action）→（Next Plan）

- (1) 各種委員会等の活動状況を点検した後に整理された課題
- (2) FD研修会での結果を分析した後に整理された課題
- (3) 重点項目として教育改善委員会で取り上げた課題
- (4) アンケート調査の分析から得られた課題
- (5) 外部評価で指摘された課題
- (6) 教員，学生，保護者等から指摘された課題



1-4. 今年度の主な活動内容

- (1) 2020 年度各種委員会の活動状況の点検
 - 【各種委員会は、教務、専攻科運営、研究支援、学生支援、寮務、広報企画、国際交流センター、教育改善の 8 委員会とする。】
 - ・ 2019 年度教育改善委員会より提言した課題の検討・改善状況を点検する。
(令和元年度教育改善報告書を参照)
 - ・ 2019 年度当初に提示された計画に基づいて行った活動内容を点検する。
 - ・ 2021 年度の活動に向けた課題を整理し提言する。
- (2) 授業改善システムの実施と評価・点検
 - ・ 授業改善用チェック・提言シートに基づいて実施する。
 - ・ 当システムの評価・点検を行う。
- (3) 学習・教育目標の達成度（本科 5 年）に関する調査の点検および自己評価シート（学年別 学習・教育目標の達成度）に関する改善方法の点検
 - ・ 平成 26 年度本科 1 年～5 年生は新システムを導入したが活用方法が明確でなかったため、平成 30 年度から教育システムの改善につなげることを目的として、新たな自己評価シートを作成した。
- (4) 学生との意見交換会に関する点検
 - ・ 2019 年度開催の意見交換会について点検および評価を行う。
- (5) 2019 年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理
 - ・ 2019 年度の参与会（2 月開催）の点検と提言
- (6) 卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善点を検討・評価し各部署へ改善点を依頼
教育改善に向けた作業計画（申し合わせ事項）【（ ）は前回の年度】
 - 1 年目（令和 2 (H27) 年度）：改善内容の検討と各部署への依頼
 - 2 年目（令和 3 (H28) 年度）：改善内容の実施
 - 3 年目（令和 4 (H29) 年度）：
 - 4 年目（令和 5 (H30) 年度）：改善内容を含めた教育システムの評価
 - 5 年目（令和 6 (R1) 年度）：卒業生・企業向けアンケート調査の実施
 - 6 年目（令和 7 (R2) 年度）：改善内容の検討と各部署への依頼
- (7) 実施済 FD 研修会の効果の点検およびその改善
 - ・ アンケートをタイムリーに実施し、FD 研修会の効果を確認する。
- (8) FD 研修会の企画・開催および報告書の作成
 - 第 1 回 FD： 4/14 実施（遠隔，MS Teams）
 - 第 2 回 FD： 4/21 実施（遠隔，MS Teams）
 - 第 3 回 FD： 9/14 実施（遠隔，MS Teams）
 - 第 4 回 FD： 3/11 実施（遠隔，MS Teams）
- (9) エビデンス収集・保管と方法の検討
 - ・ COVID-19 の影響で実施された遠隔授業等を考慮して、柔軟に対応する。
 - ・ 教育改善委員会ワーキンググループ（チーフ：長坂委員）が担当する。
- (10) 試験問題レベルの保証確認 → 結果は学生課で保管
 - ・ 年 2 回実施（前期 10 月，後期 3 月）
 - ・ 各学科の保証確認作業は各学科の教育改善委員会委員が行う。
- (11) 各部署への検討依頼，回答の集約
- (12) メール目安箱への対応

(13) 2020年度版教育改善報告書の編集・発行

(14) COVID-19の影響の検証を行う。

教育改善委員会開催

- 第1回 5/29： 方針，業務分担，エビデンス収集
卒業生アンケート調査結果からの教育システムの評価
- 第2回 7/22： 参加会からの改善点，実施済研修会の点検，
授業改善システム（2021年）の実施の依頼
- 第3回 9/25： 授業改善システムの実施報告
学習・教育目標の達成度に関する調査の点検と改善
エビデンスの有効活用の検討
- 第4回 11/19： 試験問題レベル保証の確認（前期分），各種点検の報告
- 第5回 1/22： 教育改善報告書作成依頼，各種点検の報告
- 第6回 3/23： 教育改善報告書のまとめ
（委員会の活動状況点検，学生との意見交換会を含む），
試験問題レベル保証の確認（後期分）

その他 電子メール：FD研修会の実施について

：試験問題レベルの保証（作業依頼）

令和2年度教育改善委員会業務分担

	担当項目	押田	春日	長坂	中島	奥山	高桑	小原	事務	備考
(1)	2020年度各種委員会の活動状況の点検	◎教育改善	国際交流・広報	寮	専攻科	教務	学生支援	研究支援	○	3月上旬
(2)	授業改善システムの実施と評価・点検 (作業含む)	◎ (情報)	○ (電気)	○ (機械)	○ (制御)	○ (環境)	○ (一般)	○ (一般)		7月依頼 9月上旬
(3)	学習・教育目標の達成度に関する調査の点検 自己評価シートに関する改善方法の点検	○	○			◎				9月上旬
(4)	学生との意見交換会の点検	○					◎	○		3月上旬
(5)	2019年度参与会で出された改善点の整理	○		◎						7月下旬
(6)	卒業生・企業向けアンケート調査結果から 改善内容を含めた教育システムの評価	○	◎							9月上旬
(7)	実施した研修会の効果の点検と改善	○			◎					7月下旬
(8)	FD研修会の企画・実施	○	第4回 企画・報告	第3回 企画・報告	第4回 企画・報告	第3回 企画・報告	第5回 企画・報告	第5回 企画・報告	○	
(9)	エビデンス収集・保管の改善 (実務作業含む)	○		◎						WGで担当
(10)	試験問題レベルの保証確認	○ (情報)	○ (電気)	○ (機械)	○ (制御)	○ (環境)	○ (一般)	○ (一般)	◎	前期11月 後期3月
(11)	各部署への検討依頼, 回答の集約	◎							○	随時
(12)	メール目安箱への対応	◎	○	○	○	○	○	○	○	随時
(13)	教育改善報告書の編集・発行 (PDF形式)	○	◎						○	3月下旬
(14)	COVID-19の影響の検証	○	◎	○	○	○	○	○	○	2~3月

2. 令和2年度 各種委員会の活動状況の点検結果

2020年11月18日(水)

各委員会の重点項目の点検システム

教育改善委員会

1. 概要

各委員会は、重点項目を定め、それに対する活動等計画を立てて、委員会活動を行っている。その活動が実際に適切に行われているか教育改善委員会が点検し、改善点等を提言している。そのPDCAサイクルを示す。

2. 各委員会の重点項目の点検システム

2-1 各委員会の重点項目と活動等計画の策定 (Plan) 【資料1】、【資料2】

各委員会は、年度当初にその年度に行う重点項目とその活動等計画を資料1および2のように定め、教員会議や科会で説明を行う。

2-2 各委員会の活動 (Do)

各委員会は、活動等計画に基づき実際の活動を実施する。

2-3 各委員会の評価・分析 (Check)

各委員会は、委員会独自の視点から、自己分析を行う。

2-4 各委員会の改善 (Act) 【資料3】

各委員会は、年度末にその年の重点項目に対する取組結果報告を行い、次年度への改善点等を示す。

2-5 各委員会の点検(Check)と提言(Act) 【資料4】

教育改善委員会は、資料4に示す形で、各委員会の点検を行い次年度への提言を行う。

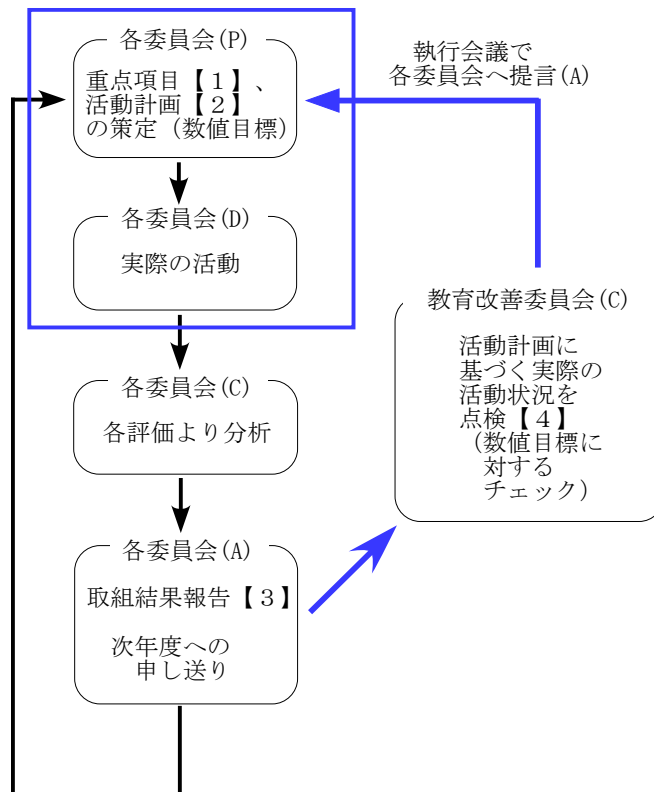


図1 各委員会の点検システム (赤枠部分)

【 】は資料番号

令和2年度の各委員会の重点項目

委 員 会	担当	重 点 項 目	機関別認証 評価項目と の対応	備考
教務委員会	教務主事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力の向上と質保証 2. コロナウイルス対応 3. 教員間の連携と協働教育の推進 4. 専攻科との連携 		
学生支援委員会	学生主事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題行動の未然防止 2. 学生会活動の支援、 地域住民との信頼関係の構築 3. 進路支援体制の充実 		
寮務委員会	寮務主事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自立性・協調性をもった コミュニティ作り 2. 指導・表彰などの体制作り 3. システムの構築・見直し、 および施設面の充実 		
専攻科運営委員会	専攻科長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学者数の確保 2. 教員研究業績の積上げ 3. 特例認定個表積上げ 4. コロナ対策 		
研究支援委員会	研究主事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学研究助成費獲得支援 2. 特許明細書執筆支援 3. 共同研究等の支援 		
広報企画室	総務主事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小中学生へのPR 2. 地域、地域企業へのPR 3. 学生、保護者、卒業生への 情報発信 		
グローバル教育 推進センター	センター長	<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍での国際交流の継続体制 作り 2. 国際力強化に向けたプラクティカ ルイングリッシュ授業の推進 3. コロナ禍で対面での協働ができな い状態でのプレミアムコース支援 の実現 		
男女共同参画推進室	室長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育活動を通じた男女共同参画の 推進 2. 男女共同参画の意識啓発 3. 女性教職員に対する労働環境支援 		
教育改善委員会	委員長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種委員会の活動状況の点検 2. 授業改善システムの実施と 評価・点検 3. FD研修会の企画・開催と評価 4. エビデンス収集・保管 		

2-1 教務委員会

令和2年度 教務委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
教務委員会	教務主事	1. 学力の向上と質保証 2. コロナウイルス対応 3. 教員間の連携と協働教育の推進 4. 専攻科との連携

1. 学力の向上と質保証

- ・「主体的・対話的な深い学び」を推進するための施策検討
- ・授業公開や授業アンケート、FD研修会などの活性化
【計画】5月11月の授業公開の実施。FD研修会の実施（2回）
- ・校内学習塾の活用した、低学力学生のフォロー
【計画】前期後期に実施
- ・CBTの活用
【計画】 CBT を全学的に実施する。CBTの結果に基づき、本校の教育プログラムのもつ問題点を抽出する。

2. コロナウイルス対応

- ・【計画】学事暦の弾力的な運用・改訂
- ・【計画】教室での授業での感染予防措置
- ・【計画】リモート授業の実施を計画

3. 教員間の連携と協働教育の推進

- ・【計画】科目間・科目間の連携を強化 科目間連携会議を開催する。
- ・【計画】学科再編にともなう準備をする。
- ・【計画】Office 365の利用を促進する。
- ・【計画】モデルコアカリキュラムへ対応、ウェブシラバスの整備
- ・【計画】他教育機関との連携の推進・技大や近隣大学との協業

4. 専攻科との連携

- ・【計画】本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築

令和2年度 教務委員会の重点項目への取組結果報告

委 員 会	担 当	重 点 項 目
教務委員会	教務主事	1. 学力の向上と質保証 2. コロナウイルス対応 3. 教員間の連携と協働教育の推進 4. 専攻科との連携

1. 学力の向上と質保証

- ・「主体的・対話的な深い学び」を推進するための施策検討・・・本年はコロナ禍の中で特別な取組みをすることができていない。
- ・授業公開や授業アンケート、FD研修会などの活性化・・・4月中にコロナ禍のなかで遠隔授業に取り組むためのFD研修会を二度にわたって実施し、その後の遠隔授業へのスムーズな移行につながった。授業公開については、前期においては対面授業でなかったため、中止し、後期のみ実施した。授業アンケートは、前期後期実施した。
- ・校内学習塾の活用した、低学力学生のフォロー・・・前期後期に実施した。成果については別表を参照。
- ・CBTの活用・・・CBTの昨年度の結果にもとづき、数学や化学の本校における弱点項目を、授業の中で強化する取組みをしている。

2. コロナウイルス対応

- ・学事暦の弾力的な運用・改訂 →4・5月に遠隔教育が行われたため、その教育効果を確認する期間を必要と判断する。したがって、前期中間テストの実施を送らせた。感染拡大に備えて、冬休みを短くし、1月までで授業を終えるように改訂した。
- ・教室での授業での感染予防措置 授業の途中40分にチャイムが鳴るようにし、チャイムご10分間を換気タイムとした。
- ・登校停止になった場合の準備 4・5月の遠隔授業を終えたところでアンケートを実施し、リモート授業の環境が不十分であった学生のためのパソコンやルーターを準備した。11月末までに、希望によってパソコンやルーターを貸与している。

3. 教員間の連携と協働教育の推進

- ・科目間・科目間の連携を強化 科目間連携会議を二度にわたって開催した。
- ・学科再編にともなう準備 学科再編の申請を行った。
- ・Office 365の利用促進 遠隔授業を実施したが、その際には全学的にOffice365 (teams) の会議機能を用いた。飛躍的に利活用が進んだ。
- ・モデルコアカリキュラムへ対応、ウェブシラバスの整備 現在検討中である。
- ・他教育機関との連携の推進・技大や近隣大学 特に行っていない。

4. 専攻科との連携

- ・本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築 現在検討中である。

令和2年度 教務委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 教務委員会

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 学力の向上と質保証	「主体的・対話的な深い学び」を推進するための施策検討	×	該当なし
	授業公開や授業アンケート、FD研修会などの活性化	○	第1回教務委員会【資料 No.4, 6】 第2回教務委員会【資料 No.5】 第3回教務委員会【資料 No.2】 第4回教務委員会【資料 No.7】 第5回教務委員会【資料なし】 第7.1回教務委員会【資料 No.2】 第8回教務委員会【資料 No.4】 第9回教務委員会【資料 No.7】 第10回教務委員会【資料 No.3】 第12回教務委員会【資料なし】 第13回教務委員会【資料 No.8】 第14回教務委員会【資料 No.8】
	校内学習塾の活用した、低学力学生のフォロー	◎	第5回教務委員会【資料 No.6】 第8回教務委員会【資料 No.5】 第11回教務委員会【資料 No.5】
	CBT の活用	○	第4回教務委員会【資料 No.8】 第5回教務委員会【資料 No.4】 第6回教務委員会【資料 No.1】 第9回教務委員会【資料 No.9】 第12回教務委員会【資料 No.13】
2. コロナウイルス対応	学事暦の弾力的な運用・改訂	○	第1回教務委員会【資料 No.6, 8, 9, 10, 11】 第2回教務委員会【資料 No.1, 3, 4】 第3回教務委員会【資料 No.3, 4, 5】 第5回教務委員会【資料 No.1】 第6回教務委員会【資料 No.4】 第8回教務委員会【資料 No.2】
	教室での授業での感染予防措置	○	第1回教務委員会【資料 No.6】 第3回教務委員会【資料 No.8】
	登校停止になった場合の準備	△	第1回教務委員会【資料 No.6】 第2回教務委員会【資料 No.4】
3. 教員間の連携と協働教育の推進	科目間・科目間の連携を強化	△	第4回教務委員会【資料 No.6】 第8回教務委員会【資料 No.6】 第10回教務委員会【資料 No.2】
	学科再編にともなう準備	×	申請のみ
	Office 365 の利用促進	△	第1回教務委員会【資料 No.6】
	モデルコアカリキュラムへ対応、ウェブシラバスの整備	○	第8回教務委員会【資料 No.3】 第9回教務委員会【資料 No.10】

			第 10 回教務委員会【資料 No.1】 第 11 回教務委員会【資料なし】 第 12 回教務委員会【資料 No.4】
	他教育機関との連携の推進・技大 や近隣大学	△	第 11 回教務委員会【資料 No.2】
4. 専攻科 との連携	本科と専攻科の連携を強化した教 育体制の構築	×	該当なし

(2) 次年度への提言

1. 学力の向上と質保証に関して

- ・授業公開の中止は、コロナ禍においてはやむを得ない状況である。FD 研修会については、早いタイミングで実施することができ、これに伴って、円滑に遠隔授業を始めることが可能であった。
- ・校内学習塾による成績不振学生への対応もしっかりと取り組んでいる。対象を成績不振学生だけではなく、意欲のある学生に対しても実施することにも価値があるのではないかと思う。
- ・CBT の活用については、試験を実施してはいるものの、結果を反映できていないと言えないため、引き続き、活用方法について議論していただきたい。

2. コロナウイルス対応について

- ・学事暦の弾力的な運用・改訂については、コロナ禍において重要な役割を担っているため、引き続き、状況に合わせて議論していただきたい。
- ・教室等での感染拡大防止に対しては、消毒の設置、換気の徹底等、対策はしっかりと行われている。
- ・登校停止になった際の対応に関しては、教員ごとに対応が異なる部分もあったため、学生間に混乱が生じる場面が見受けられた。より一層の研修が必要ではないか考える。そのため、遠隔授業に関する研修会について、引き続き検討していただきたい。

3. 教員間の連携と協働教育の推進について

- ・科目間連携会議等は適宜実施されているものの、その効果を定量的に評価する方法について議論していただきたい。

4. 専攻科との連携について

- ・本年度は特に検討がされていないため、引き続き、専攻科との連携を強化できるよう議論を進めていただきたい。

2-2 学生支援委員会

令和2年度 学生支援委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
学生支援委員会	学生主事	1. 問題行動の未然防止 2. 学生会活動の支援、 地域住民との信頼関係の構築 3. 進路支援体制の充実

1. 問題行動の未然防止

- ・教員の連携によるよりの確な学生の捉え、学生指導の徹底
- ・交通事故防止に向けた取組
- ・盗難防止に向けた取組
- ・各種講習会を通じた防止への意識付け
- ・いじめ未然防止への取組
- ・学生相談室と連携した学生対応

2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築

- ・学生会活動の支援
- ・部長会活動の支援
- ・課外活動の支援（見直しを含む）
- ・工嶺祭の支援
- ・ボランティア活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応

3. 進路支援体制の充実

- ・低年次からのキャリア形成への取組
- ・各種講習会等を通じた進路支援
- ・学科を超えた進路支援の構築
- ・キャリアコーディネーターと連携した進路指導
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応

令和2年度 学生支援委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
学生支援委員会	学生主事	1. 問題行動の未然防止 2. 学生会活動の支援、 地域住民との信頼関係の構築 3. 進路支援体制の充実

1. 問題行動の未然防止

- ・**教員の連携によるよりの確な学生の捉え、学生指導の徹底**
 各学年会に学生支援委員のいる体制を構築し情報の収集に努めた。また寮務主事の学生支援委員会への参加により寮生の情報収集にも努めた。
- ・**交通事故防止に向けた取組**
 6/10 と 10/5 に路上での交通安全指導を行った。その際には学生会役員も参加し交通安全意識の醸成に努めた。また、1～4年生を対象に交通安全講習会を実施した。実際に事故が起きた際には担任を通じて全学生への注意喚起を行った。新規道路の開通にともない全学生に対して注意喚起のメール配信を行うとともに、路上での立ち番指導を行った（3/1～3/5）。
- ・**盗難防止に向けた取組**
 盗難事件の起きた際には全教職員に向けてメールで注意喚起を行い、盗難防止ポスターの作成し担任に各教室への掲示を依頼した。自転車用チェーンロックを希望者に対して配布することを周知した。
- ・**各種講習会を通じた防止への意識付け**
 交通安全講習会（1～4年生）、SNS講習会（1～4年生）、特殊詐欺防止講習会（2年生）、消費者被害未然防止講習会（2年生）を開催した。
- ・**いじめ未然防止への取組**
 SNSに関連した事案の増加に伴い、SNS講習会の内容をいじめ防止の観点をふまえて選定した。
- ・**学生相談室と連携した学生対応**
 心理面に問題を抱えた学生との面談には学生相談室員と共同であった。

2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築

- ・**学生会活動の支援**
 今年度は活動が制限された中で、一日体験入学質問コーナー、ハロウィン企画、暗号読解、翠嶺の発行などを行った。例年とは違う形の活動も多かったが、学生会役員が学生会活動をしっかり支えてくれたことにより、1年乗り切ることが出来た。
- ・**課外活動の支援（見直しを含む）**
 課外活動については多くの制限がかかった。計画書を丁寧に作成し、認められた団体が活動を行った。土日に関しても活動が出来ないことが多かった。出来た日においても、健康チェック確認シートの提出、参加者全員の検温を実施した。例年とは違う大変な状況ではあったが、感染状況に基づいて可能な範囲で最大限の支援を行った。
- ・**工嶺祭の支援**
 年度当初より、一般公開有・無の両面の可能性を考慮しつつ企画・準備を進めた。オンライン配信での実施が確定し、従来とは大幅に企画内容が変更となったものの、学生らがアイデアを出し合い、切磋琢磨しながら取り組むことで、初のオンライン工嶺祭を成功させることができた（別添資料あり）。
- ・**ボランティア活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築**
 長野マラソン中止等、これまで実施してきたボランティア活動の多くは実施することができなかったが、「長野市放課後子どもプラン」は、登校再開後の7月に説明を行い、27名が登録した。今年度はこれまでの学生会主導の活動だけではなく、課外活動団体で団体登録を行い活動したり、留学生が積極的に活動に参加する等、制限が多い中でも、地域住民との信頼関係の構築に努めることができた。
- ・**新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応**
 学生会活動（学生総会、工嶺祭等）や課外活動が新型コロナウイルス感染拡大に伴い、制限されることとなった。活動実施時における感染状況に基づいて可能な範囲内で実施した。

課外活動については、リスク管理室にて策定された活動基準に基づいて活動制限を行った（別添資料あり）。

3. 進路支援体制の充実

- **低年次からのキャリア形成への取組**

今年はコロナの影響で実施されなかったが、地元の企業と学生のクラス展のコラボレーションが考えられていて、来年度以降に実施される見込みである。

- **各種講習会等を通じた進路支援**

今年度は、県外からの講習会、学生が県外へ出向く就職セミナーは遠隔で開催した。回数としては例年通り、10月から3月までに、延べ10回ほど行われた。

- **学科を超えた進路支援の構築**

1月の卒業生講演会では、学科の枠を超えて、学生が様々な企業にアプローチして、今後の進路を決める機会としている。今年はコロナ禍であっても、Zoomを利用して開催した。

- **キャリアコーディネーターと連携した進路指導**

12月にキャリアコーディネーターによる講演会を実施し、それを契機にして、希望者がキャリアコーディネーターとの面談を行い、進路の相談、面接の練習などの指導を学生が受けた。

- **新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応**

基本的に、遠隔での対応を行い、県内からのコーディネーター等のみ対面での講演を行った。

ただし、会場の密を防ぐため、講演を2回に分ける工夫も行った。

新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、進路イベントについて「対面実施」「遠隔・対面併用実施」「遠隔実施」のいずれかの方法にて実施した。編入学試験や就職活動日程が変動的となり、担任ならびに進路指導教員を中心に学生のフォローを行った（別添資料あり）。

令和2年度 学生支援委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 学生支援委員会

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 問題行動の未然防止	・教員の連携によるよりの確な学生の捉え、学生指導の徹底	○	・ SNS 上で不適切な発言を注意。 ・ 財布から現金が抜き取られる事件、自転車が紛失する事件が発生した。これらに関して注意喚起のポスターを作成し担任に教室への掲示を依頼した。 資料：令和2年度学生支援委員会活動のまとめ
	・交通事故防止に向けた取組	◎	・ 1, 2, 3, 4 学年に対して交通安全・SNS 講習会を行った。 ・ 朝の交通安全指導を 6 月 10 日および 10 月 5 日に行った。 資料：令和2年度学生支援委員会活動のまとめ
	・盗難防止に向けた取組	○	・ 注意喚起のポスターを作成し担任に教室への掲示を依頼した。 資料：令和2年度学生支援委員会活動のまとめ
	・各種講習会を通じた防止への意識付け	○	・ 11 月 13 日に 2 年生を対象に特殊詐欺被害防止講演会を行った。長野中央警察署からの依頼で本校としては初の試みだった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため 100 番教室での 1, 2 組への講演を配信し、残りの 3 クラスは各教室で視聴する形で行った。 資料：令和2年度学生支援委員会活動のまとめ
	・いじめ未然防止への取組	△	いじめ発覚後の対応は適切と考えられるが、未然防止の活動は改善の余地あり。 資料：令和2年度学生支援委員会活動のまとめ
	・学生相談室と連携した学生対応	○	・昨年度末に発覚した学

			<p>生間の問題で被害を訴えていた学生の精神状態が不安定となり学生相談室との連携のもとに解決策を模索した。</p> <p>資料：令和 2 年度学生支援委員会活動のまとめ</p>
2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築	・学生会活動の支援	○	<p>・集まったイベントが出来ない中で、学生会役員がこの状況で出来る企画を考えてくれ、学生会長杯として、暗号読解と高専川柳という企画を実施した。</p> <p>資料：令和 2 年度学生支援委員会活動のまとめ</p>
	・課外活動の支援（見直しを含む）	◎	<p>・各団体に月間活動計画書，月間活動報告書の作成を依頼した。</p> <p>・「部同好会活動の継続許可基準」に基づき学生支援委員会で部同好会の継続審査を行った。</p> <p>・課外活動指導員(非常勤職員)を 2 名雇用した。</p> <p>・平日の活動時間は 2 時間で 5 日間のうち 1 日以上休みを入れる，休日の活動時間は 3 時間で土日どちらか休みにするルールとなった。</p> <p>課外活動の指導教員に関しては，2018 年度末に，5 年に 1 度の大幅な見直しを実施しているので，今年度末に関しては，退職等異動のあった教員（団体）に対する補充にとどめた。</p> <p>資料：令和 2 年度学生支援委員会活動のまとめ</p>
	・工嶺祭の支援	○	<p>・通常での開催ができず、オンライン開催となった。体育祭などは工夫して良いものができた。</p> <p>通常で開催ができない中で、やれる範囲で最善の活動を行った。</p> <p>資料：令和 2 年度学生支援委員会活動のまとめ</p>
	・ボランティア活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築	△	<p>・コロナウイルスの感染拡大により、十分な活動ができていない。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・学生の隣の住人から夜中の騒音およびタバコの喫煙マナーに関して苦情が寄せられた。 ・学生3人が共同生活しているアパートの上の部屋の住人から騒音，喫煙および駐車場の利用マナーについて苦情が寄せられた。 <p>資料：令和2年度学生支援委員会活動のまとめ</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応 	◎	<p>学校が再開されてから1週間から10日くらいの期間，朝のあいさつ運動を兼ねて消毒のお願いを実施した。日替わりで学生会役員が，正面玄関など3箇所での消毒することが習慣となるように呼びかけをしてくれた。</p> <p>資料：令和2年度学生支援委員会活動のまとめ</p>
3. 進路支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・低年次からのキャリア形成への取組 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、低学年から一貫したキャリア教育を構築する必要がある。 <p>資料：令和2年度学生支援委員会活動のまとめ</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講習会等を通じた進路支援 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身が進路決定に向けて行動できるような多くの機会を提供できるようになってきた。 <p>資料：令和2年度学生支援委員会活動のまとめ</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・学科を超えた進路支援の構築 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生向けの進路セミナー，4学年会主催の卒業生講演会などをオンラインで実施した。 <p>資料：令和2年度学生支援委員会活動のまとめ</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアコーディネーターと連携した進路指導 	◎	<p>キャリアコーディネーターが月2回ほど来校して，進路相談や面接練習を実施している。進路指導を専任で担当する人員の配置が進みつつある。</p> <p>資料：令和2年度学生支援委員会活動のまとめ</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生に対する進路説明会は，新型コロナウイルス感染拡大防止のため，100番教室の開場を遅くし，講演時間を短縮

		<p>するといった対応をした。</p> <p>資料：令和 2 年度学生支援委員会活動のまとめ</p>
--	--	--

(2) 次年度への提言

- ・令和 2 年度は、コロナウイルスの感染拡大の状況のもと、通常の活動はかなり制限されたが、そのような状況の中で最善の取り組みを行ったと評価できる。コロナウイルスに対する対応は、この一年間の経験を踏まえ、より適切な取り組みが期待される。
- ・本校の近くに新しい道路が開通したため、交通安全指導のさらなる充実が求められる。また、アルバイト暮らしの学生への生活指導も必要と考えられる。
- ・低学年の卒業後の進路への意識が低い。コロナウイルスの感染拡大で中止となった OB による講演の機会などを充実させてほしい。

2-3 寮務委員会

令和2年度 寮務委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
寮務委員会	寮務主事	1. 自立性・協調性をもった コミュニティ作り 2. 指導・表彰などの体制作り 3. システムの構築・見直し、 および施設面の充実

1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り
 - ・寮生の寮生活支援のための施策検討
 - ・アンケートによる環境調査
2. 指導・表彰などの体制作り
 - ・指導体制作りの実施
 - ・表彰体制作りの実施
 - ・表彰の案内
3. システムの構築・見直し、および施設面の充実
 - ・システムの構築・見直しの準備
 - ・施設面の充実の準備

令和2年度 寮務各委員会の重点項目への取組結果報告

委 員 会	担 当	重 点 項 目
寮務委員会	寮務主事	1. 自立性・協調性をもった コミュニティ作り 2. 指導・表彰などの体制作り 3. システムの構築・見直し、 および施設面の充実

1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り

- ・寮生の寮生活支援のための施策検討
 →コロナウイルス感染拡大防止のため、すべての行事を中止することとなった。
- ・寮生会アンケートによる環境調査
 →寮生への満足度調査を実施した。現状の課題等を抽出することができた。

2. 指導・表彰などの体制作り

- ・指導体制作りの実施
 → 館長・階長会議を実施した。
 → 寮生会との協議会をほぼ月一回実施した。
- ・表彰体制作りの実施
 →寮生努力賞および寮生会役員賞を継続的に実施することとした。
 →国際寮の名称を公募した。
- ・表彰の案内
 → 寮生努力賞、寮生会役員賞、国際寮の名称などを適宜情報提供した。

3. システムの構築・見直し、および施設面の充実

- ・システムの構築・見直しの準備
 →システムの構築・見直しの準備の要項を作成した。次年度より要項に沿って実施を試みた。
- ・施設面の充実の準備
 →ブラインドの新設などを行ったが、アンケートに準じたものを実施することができな
 かった。

令和2年度 寮務委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 寮務委員会

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り	・寮生の寮生活支援のための施策検討	△	居室の往来やイベントの中止などにより支援をすることが難しかった。
	・寮生会アンケートによる環境調査	◎	アンケートを実施し、課題を抽出できた。
2. 指導・表彰などの体制作り	・指導体制作りの実施	◎	月一回程度の寮生役員との協議会の実施
	・表彰体制作りの実施	○	継続的に実施する体制の確保
	・表彰の案内	◎	適宜案内することができた
3. システムの構築・見直し、および施設面の充実	・システムの構築・見直しの準備	○	違反点の共有方法変更等
	・施設面の充実の準備	△	ブラインドの新設

(2) 次年度への提言

- ・桜風寮のシステムの構築について、対応が必要と思われる。
- ・桜風寮の施設面の充実の準備、対応が必要と思われる。
- ・入寮許可の年度更新対応の充実が必要と思われる。
- ・違反点の担任および保護者との共有が必要と思われる。

2-4 専攻科運営委員会

令和2年度 専攻科委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
専攻科運営委員会	専攻科長	1. 入学者数の確保 2. 教員研究業績の積上げ 3. 特例認定個表積上げ 4. コロナ対策

1. 入学者数の確保
 - ・ 本科学生への進学説明会等での分かりやすい説明
 - ・ 専攻科運営委員による各科への呼びかけ
 - ・ 専攻科棟の学習環境整備
 - ・ 連携教育プログラムのPR
 - ・ 専攻科2年ポスタ発表の本科へのPR
2. 教員研究業績の積上げ
 - ・ 研究主事と連携した研究活動の活性化
 - ・ 特例認定専攻科審査への対応
 - ・
3. 特例認定個表積上げ
 - ・ 個表増加を目的とした教員への働きかけ
 - ・ 准教授以上への昇任教員への個表申請の働きかけ
 - ・ 教員への研究業績積上げ依頼
4. コロナ対策
 - ・ 遠隔講義実施に向けた環境整備
 - ・ 講義室での感染予防
 - ・ 学外実習への対応準備

令和2年度 専攻科運営委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 専攻科運営委員会

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 入学者数の確保	・本科学生への進学説明会等での分かりやすい説明	○	・大学説明会に合わせて準備をし、昨年度の説明を整理した。説明会は実施に至らず。
	・専攻科運営委員による各科への呼びかけ	◎	・第1回 報告4 専攻科受験希望状況について ・専攻科委員会および機会をつかまえて委員へ依頼した。
	・専攻科棟の学習環境整備	◎	・講義室2の机を個別可動式に変更した。
	・連携教育プログラムのPR	○	・第4回 議題6 実務訓練の実施方針について ・第4回 報告2 連携教育プログラムへの応募希望 ・第11回 報告4 連携教育プログラムの研究マッチングについて ・大学説明会に合わせて準備をし、昨年度の説明を整理した。説明会は実施に至らず。
	・専攻科2年ポスタ発表の本科へのPR	○	・会場の密を避けるため積極的なPRは実施せず。
2. 教員研究業績の積上	・研究主事と連携した研究活動の活性化	◎	・9月4日高専機構主導の研究力強化プログラムが行われるにともない、本校から教員4名とメンター教員3名が指名され、活動を開始した。9月9日Webにて機構本部と打合せ、12月16日、17日に研修会が行われた。
	・特例認定専攻科審査への対応	◎	・第4回 議題4 特例適用認定の変更審査調査について ・第9回 報告4 特例適用認定5年目審査について

			・第13回 報告2 特例認定審査について
3. 特例認定個表積上げ	・個表増加を目的とした教員への働きかけ	◎	・第2回 議題4 特例適用認定の変更審査調査について
	・准教授以上への昇任教員への個表申請の働きかけ	◎	・第2回 議題4 特例適用認定の変更審査調査について
	・教員への研究業績積上げ依頼	◎	・第2回 議題4 特例適用認定の変更審査調査について
4. コロナ対策	・遠隔講義実施に向けた環境整備	◎	・第2回 報告2 遠隔授業対応について ・第3回 報告2 遠隔授業状況 ・第12回 報告5 予算関係報告 ・カメラ, PC, マイクスピーカを設置した.
	・講義室での感染予防	◎	・第1回 報告2 新型コロナウイルス感染防止策について
	・学外実習への対応準備	◎	・第1回 議題4 海外での学外実習の対応について ・第2回 議題7 その他(学外実習について) ・第4回 議題2 令和2年度学外実習について ・第5回 議題2 学外実習準備について ・第6回 議題3 学外実習の中止基準への対応について

(2) 次年度への提言

- ・入学者数の確保に関して、本科生への説明会、専攻科2年生のポスター発表のPRなど計画はあったものの、他との連携やコロナ対策により実施されなかったようである。入学者の確保に向けて、説明会など実施が望まれる。

2-5 研究支援委員会

令和2年度 研究支援委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
研究支援委員会	研究主事	1. 科学研究助成費獲得支援 2. 特許明細書執筆支援 3. 共同研究等の支援

1. 科学研究助成費獲得支援
 - ・ 科学研究助成費申請にかかる情報提供
 - ・ 科学研究助成費申請にかかる申請書添削活動の強化
2. 特許明細書執筆支援
 - ・ 発明状況の確認と指導
 - ・ 特許明細書執筆支援活動
3. 共同研究等の支援
 - ・ 大型予算申請の支援
 - ・ 技術相談からの共同研究への展開

令和2年度 研究支援委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
研究支援委員会	研究主事	1. 科学研究助成費獲得支援 2. 特許明細書執筆支援 3. 共同研究等の支援

1. 科学研究助成費獲得支援

- ・ 科学研究助成費申請にかかる情報提供
 科学研究助成費申請にかかる現在の動向等のデータを配布
- ・ 科学研究助成費申請にかかる申請書添削活動の強化
 7名に対して申請書添削を実施

2. 特許明細書執筆支援

- ・ 発明状況の確認と指導
 6名の教員に対して三枝弁理士による特許シーズの開拓を実施
- ・ 特許明細書執筆支援活動
 特許出願 1 件，2 件が出願準備中

3. 共同研究等の支援

- ・ 大型予算申請の支援
 RA の支援により大型予算獲得申請 2 件(予定含む)
- ・ 技術相談からの共同研究への展開
 本年度は具体的な実施案件なし

令和2年度 研究支援委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 教務委員会

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 科学研究助成費獲得支援	・科学研究助成費申請にかかる情報提供	○	科研費申請の動向などのデータを配布
	・科学研究助成費申請にかかる申請書添削活動の強化	○	7名に実施
2. 特許明細書執筆支援	・発明状況の確認と指導	○	6名に対して特許シーズの開拓を実施
	・特許明細書執筆支援活動	○	1件出願、2件予定
3. 共同研究等の支援	・大型予算申請の支援	○	申請2件(予定含む)
	・技術相談からの共同研究への展開	×	案件無し

(2) 次年度への提言

- ・科研費申請の情報提供はこれからも積極的に行ってもらいたい。
- ・申請書添削活動やその他の支援も引き続き、実施案件の増加を目指してほしい。

2-6 広報企画室

令和2年度 広報企画室の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
広報企画室	委員長	1. 小中学生へのPR 2. 地域、地域企業へのPR 3. 学生、保護者、卒業生への情報発信

3つの重点項目について、各部門において以下のように活動する。

1. 公開企画部門

今年度の目標

- ・長野県下の小中学校における教育を側面から支援し、地域への貢献・地域との連携をより一層推進すること。また、理系の面白さを伝えることに加え、長野高専のPR、入試倍率確保への戦略を考える。そのために、地域で開催されるイベントに、積極的に参加する。特に、長野高専キッズサイエンス 2020 には、力をいれる。さらに、PR動画を再編集し、中学校への配付や産業フェア等で上映する。

今年度の活動計画

- ・サイエンスツアーやライブの募集と準備及び各種イベントの実施に向けた準備を行う。
- ・SBC製作のPR動画は、昨年制作した動画を15分ものにし、各イベントで流す。
- ・各所で開催される産業フェア等へ参加し、企業等へ高専をPRする。

2. 刊行物部門

今年度の目標

- ・小中学生、地域・企業、学生、保護者、卒業生にPR・情報発信するために、学園だよりの発行、オリジナルグッズ配付などを行うと共に、男女共同参画推進室との連携を深め、女子学生獲得のためのチラシ作成を行う。

今年度の活動計画

- ・学園だよりは3回発行する。春号は500部増で、体験入学に配付する。
- ・消しゴム、定規、エコバッグ、クリアファイルのオリジナルグッズを限定して作成し、各所で配付する。
- ・男女共同参画推進室と連携して、女子学生獲得に向けたチラシを作成する。

3. 情報発信部門

今年度の目標

- ・小中学生、地域・企業、学生、保護者、卒業生にPR・情報発信するために、トップページのリニューアルを行い分かり易く入りやすいホームページ(HP)にすると共に、男女共同参画推進室との連携を深め、女子学生獲得のためのHP作成を行う。

今年度の活動計画

- ・トップページのリニューアルを行い分かり易く入りやすいHPにする。
- ・男女共同参画推進室と連携して、女子学生獲得に向けたHPを構築する。
- ・HPのサイトメンテナンスや保守業務などを行い、HPの維持に努める。

令和2年度 広報企画室の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
広報企画室	委員長	1. 小中学生へのPR 2. 地域、地域企業へのPR 3. 学生、保護者、卒業生への 情報発信

3つの重点項目について、各部門において以下のように活動を実施した。

1. 公開企画部門

- ・学校紹介ビデオを15分に拡大して、各項目に分けてホームページに掲載すると共に、イベントで放映した。
- ・15秒のCMを作成し、22回放送された。それに付随して、テレビ番組「Yes!ものづくり」4回、ラジオ番組「ラジオJのJのコラム」2回が放送された。
- ・サイエンスツアーの実施
 公開テーマ5件、別テーマ2件、実施件数：合計8件（参加者284名）
- ・サイエンスライブの実施：実施テーマ：1件（親子で学ぼう初めてのプログラミング）
- ・各種イベントへの参加：第2回ながの子ども・子育てフェスティバル（9/22）
 なお、まつもと広域ものづくり、信州環境フェア、長野高专キッズサイエンスは中止
- ・各所で開催される産業フェア等へ参加
 長野しんきんビジネスフェア、ぞっこんさく市、諏訪圏工業メッセ、産業フェア in 信州、上田地域産業展はすべて中止となり参加せず。

2. 刊行物部門

- ・学園だよりは、180号、181号を発行した。182号（R3年春号）は制作中である。
- ・定規,エコバッグ,クリアファイル等のオリジナルグッズの追加発注はしなかった。
- ・入学案内と学校要覧は表紙のデザイン刷新し、入学案内ポスターと入学案内パンフレットは撮影からレイアウトまで新しいものを製作中である。

3. 情報発信部門

- ・ウェブページ更新作業、更新サポート、ウェブシステム保守・管理を行った。
- ・トップページおよび女子学生増加のためのページをリニューアルした。
- ・活躍するOB・OGおよび在校生からのメッセージ記事を掲載した。
- ・新型コロナウイルス対応ページ、オンライン学校説明会・ウェブオープンキャンパス・オンライン一日体験入学、男女共同参画推進室ページ、オンライン工嶺祭ページを作成した。

令和2年度 広報企画室の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 広報企画室

(1) 取組結果報告に基づく評価

3つの重点項目に対して各部門で活動した結果を以下のように評価する。

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 公開企画部門	・サイエンスツアーやライブの募集と準備及び各種イベントの実施に向けた準備を行う	△	イベントはほぼ中止 第2回委員会報告
	・SBC製作のPR動画は、昨年制作した動画を15分ものにし、各イベントで流す	◎	動画制作、CM制作 第2回委員会報告
	・各所で開催される産業フェア等へ参加し、企業等へ高専をPRする	×	産業フェアはすべて中止
2. 刊行物部門	・学園だよりは3回発行する	◎	発行した
	・オリジナルグッズを限定して作成	×	作成しなかった
	・男女共同参画推進室と連携して、女子学生獲得に向けたチラシを作成する	○	男女共同参画推進室でチラシを作成
3. 情報発信部門	・トップページのリニューアルを行い分かり易く入りやすいホームページにする	◎	第2回委員会報告
	・男女共同参画推進室と連携して、女子学生獲得に向けたHPを構築する学科再編にともなう準備	◎	第2回委員会報告
	・HPのサイトメンテナンスや保守業務などを行い、ホームページの維持に努める	◎	第2回委員会報告

(2) 次年度への提言

- ・部門の活動が高専PR・入試倍率の維持・優秀な学生の確保につなげる方法の検討
- ・学科改組に伴う広報活動を、7月から開始できるよう早めに計画

2-7 グローバル教育推進センター

令和2年度 グローバル教育推進センターの重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
グローバル教育 推進センター	センター長	1. コロナ禍での国際交流の継続体制作り 2. 国際力強化に向けたプラクティカルイングリッシュ授業の推進 3. コロナ禍で対面での協働ができない状態でのプレミアムコース支援の実現

1. コロナ禍での国際交流の継続体制作り
 - ・コロナ禍でも「国際交流を止めない」施策の検討と実施
2. 国際力強化に向けたプラクティカルイングリッシュ授業の推進
 - ・少人数生のネイティブスピーカーによる授業の運用
3. コロナ禍で対面での協働ができない状態でのプレミアムコース支援の実現
 - ・インターネット活用によるタイププレミアムコースとの連携

令和2年度 グローバル教育推進センターの重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
グローバル教育 推進センター	センター長	1. コロナ禍での国際交流の継続体制作り 2. 国際力強化に向けた実践的イングリッシュ授業の推進 3. コロナ禍で対面での協働ができない状態でのプレミアムコース支援の実現

1. コロナ禍での国際交流の継続体制作り

- ・コロナ禍でも「国際交流を止めない」施策の検討と実施
【具体的な実施内容】
- ・協定校へのインターネット交流開催へのアンケート調査
(実現可能性、機材などの環境、実施トピックス、実施時期など)
- ・ネイティブ教員によるファシリテーション教育の実施
(各交流の中心となる教員に対して、ファシリテーターとしての教育を2回実施)
- ・協定校(タイ、香港)とのインターネット交流の実現と継続的实施
(20名以上の本校学生が交流に参加)

2. 国際力強化に向けた実践的イングリッシュ授業の推進

- ・事前学習講座
英会話クラスに入る前の事前学習として日本人英語教員による基礎英語講座を実施。
- ・少人数制クラスでの、ネイティブスピーカーによる英会話授業の運用
1クラス10名程度で英会話授業を実施。
- ・授業評価アンケートの実施
次年度以降の授業運営の参考にするために、自由形式で学生からのアンケートをとり、学生の意見聴取を実施。
- ・登校禁止時の遠隔授業
発話力向上主眼の対話型授業の遠隔での実現
- ・教員による相互評価
授業公開時に授業見学を行い、意見をフィードバック。

3. コロナ禍で対面での協働ができない状態でのプレミアムコース支援の実現

- ・インターネット活用によるタイプレミアムコースとの連携
【具体的な実施内容】
- ・国内支援体制の強化
(実務者会議の設置、Teams等での情報共有および打ち合わせ実施)
- ・プレミアムコース学生・教員への支援
(授業内容の検討、教材の提供、アセスメントの実施へのTeams等の活用)
- ・OVECへの報告と改善のための取組み
(アセスメント報告をWeb形式で実施、タイ側の主体的取組み向上への支援)
- ・遠隔での実験指導を見据えたビデオライブラリーの制作
(物理、化学実験の遠隔指導用に、指導ビデオを制作)

令和2年度 グローバル教育推進センターの重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. グローバル教育推進センター

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. コロナ禍での国際交流の継続体制作り	・協定校へのインターネット交流開催へのアンケート調査	◎	第3回委員会で報告
	・ネイティブ教員によるファシリテーション教育の実施	◎	10/1、11/11 実施
	・協定校（タイ、香港）とのインターネット交流の実現と継続的实施	○	10/24～12/25 期間に、合計9回実施
2. 国際力強化に向けたプラクティカルイングリッシュ授業の推進	・授業評価アンケートの実施	◎	R3年1月に実施
	・登校禁止時の遠隔授業	△	R2 英語 IV エビデンス参照
	・教員による相互評価	○	11月16日～21日実施
3. コロナ禍で対面での協働ができない状態でのプレミアムコース支援の実現	・国内支援体制の強化	○	6/19, 11/13: 支援校実務者会議 7/17, 11/20: 支援校会議 随時: 情報共有・打ち合わせ等
	・プレミアムコース学生・教員への支援	◎	5/21, 26, 27: 授業内容検討会議 6/22～26: 新入生向けオンライン補講 8/24～26: 前期中間アセスメント 10/27～29: 前期期末アセスメント 12/23: オープンハウスでの高専情報提供 随時: 教材提供等
	・OVEC への報告と改善のための取組み	○	OVEC へのアセスメントフォローアップ会議 9/3: 前期中間 11/11: 前期期末
	・遠隔での実験指導を見据えたビデオライブラリー制作	◎	9月: 6テーマ 11月: 5テーマ 1月: 3テーマ

(2) 次年度への提言

グローバル教育推進センターでは、国際交流センター（重点項目1対応）、グローバルエンジニア育成センター（重点項目2対応）、タイ協働センター（重点項目3対応）の3センターが各々の重点項目に取り組んでいる。今年度はコロナ禍におけるインターネット活用を進め、取り組みを止めないという決意で各センター長のリーダーシップにより進めている。来年度も早々にはこの環境は改善されないと思われること、コロナ禍で教職員、学生がインターネットスキルを向上させることができたことを踏まえ、来年度以降も継続して、「インターネットを有効活用し、連携の強化」を進め、よりきめ細やかな心配りと、良好な関係の維持が必要である。

2-8 教育改善委員会

令和2年度 教育改善委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
教育改善委員会	委員長	1. 各種委員会の活動状況の点検 2. 授業改善システムの実施と評価・点検 3. FD研修会の企画・開催と評価 4. エビデンス収集・保管

1. 各種委員会の活動状況の点検

【教務，専攻科運営，研究支援，学生支援，寮務，広報企画，国際交流センター，男女共同参画推進室，教育改善.】

 - ・ 2019年度教育改善委員会より提言した課題の検討・改善状況の点検
 - ・ 2019年度当初に提示された計画に基づいて行った活動内容の点検
 - ・ 2021年度の活動に向けた課題を整理し提言
2. 授業改善システムの実施と評価・点検
 - ・ 授業改善用チェック・提言シートに基づくシステムの評価・点検
 - ・ 学習・教育目標の達成度（本科5年）に関する調査と自己評価シートの点検
 - ・ 学生との意見交換会に関する点検
 - ・ 2019年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理
 - ・ 実施済FD研修会の効果の点検およびその改善
3. FD研修会の企画・開催と評価
 - ・ アンケートをタイムリーに実施し，FD研修会の効果を確認
 - ・ FD研修会の企画・開催および報告書の作成
 - ・ 【計画】Office 365の利用を促進する。
4. エビデンス収集・保管
 - ・ 実施確認
 - ・ COVID-19の影響で実施された遠隔授業等を考慮して，柔軟に対応

令和2年度 教育改善委員会の重点項目への取組結果報告

委 員 会	担 当	重 点 項 目
教育改善委員会	委員長	1. 各種委員会の活動状況の点検 2. 授業改善システムの実施と評価・点検 3. FD研修会の企画・開催と評価 4. エビデンス収集・保管

1. 各種委員会の活動状況の点検

【教務，専攻科運営，研究支援，学生支援，寮務，広報企画，国際交流センター，男女共同参画推進室，教育改善.】

- ・ 2019年度教育改善委員会より提言した課題の検討・改善状況の点検

【具体的な実施内容】

- ・ 2019年度当初に提示された計画に基づいて行った活動内容の点検

【具体的な実施内容】

- ・ 2021年度の活動に向けた課題を整理し提言

2. 授業改善システムの実施と評価・点検

- ・ 授業改善用チェック・提言シートに基づくシステムの評価・点検
- ・ 学習・教育目標の達成度（本科5年）に関する調査と自己評価シートの点検
- ・ 学生との意見交換会に関する点検
- ・ 2019年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理
- ・ 実施済FD研修会の効果の点検およびその改善

3. FD研修会の企画・開催と評価

- ・ アンケートをタイムリーに実施し，FD研修会の効果を確認
- ・ FD研修会の企画・開催および報告書の作成
- ・ 【計画】Office 365の利用を促進する。

4. エビデンス収集・保管

- ・ 実施確認
- ・ COVID-19の影響で実施された遠隔授業等を考慮して，柔軟に対応

令和2年度 教育改善委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 教育改善委員会

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 各種委員会の活動状況の点検	・点検システムおよび点検書式の見直し	○	第3回 議題4 教育の質保証のための各種点検・改善システムについて
	・新しい点検システムに従って作成された計画に基づいて行った活動内容の点検	△	2021年度にまとめる予定
	・2021年度の活動に向けた課題を整理し提言	△	2021年度にまとめる予定
2. 授業改善システムの実施と評価・点検	・授業改善用チェック・提言シートに基づくシステムの評価・点検	◎	第2回 議題1 2020年度教育改善システムについて（令和元年度のチェック報告書の作成依頼） 第3回 議題1 2020年度教育改善システムの報告書（各学科から報告書が提出された）
	・学習・教育目標の達成度（本科5年）に関する調査と自己評価シートの点検	△	第5回 議題2（教育改善のための基礎データとして利用することになった）
	・学生との意見交換会に関する点検	◎	本科については、新型コロナウイルス感染防止のため意見交換会は実施せず。専攻科については実施。
	・2019年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理	◎	第6回 議題1 2020年度教育改善報告書について
	・実施済FD研修会の効果の点検およびその改善	◎	第6回 議題1 2020年度教育改善報告書について
	・アンケートをタイムリーに実施し、FD研修会の効果を確認	◎	第3回 報告1 第3回FD研修会について（第3回の実施報告）
3. FD研修会の企画・開催と評価	・FD研修会の企画・開催および報告書の作成	◎	第1回 議題4 FD研修会について（第1回および第2回の実施報告、第3回の予定） 第2回 議題2 FD実施について（第3回FD研修会の計画） 第3回 報告1 第3回FD研修会について（第3回

			の実施報告)
	・【計画】 Office 365 の利用を促進する。	◎	FD 研修会を Teams によりオンラインで実施，アンケートについてはフォームを使用した
4. エビデンス収集・保管	・実施確認	◎	第1回 議題3 2020年度のエビデンス収集・保管について（エビデンス収集のスケジュールなど） 第2回 議題3 エビデンス収集状況の報告 第3回 議題2 前期のエビデンス収集について（2020年度エビデンス収集の依頼文，提出開始時期について） 第4回 議題1 前期エビデンス収集状況について（前期末の収集状況，学年末の収集日程） 第5回 議題1 エビデンスについて（エビデンス収集（学年末）の流れについて）
	・COVID-19の影響で実施された遠隔授業等を考慮して，柔軟に対応	◎	第3回 議題2 前期のエビデンス収集について（前期末の成績評価法の変更により，前期のエビデンス収集期間を10月13日～10月27日に変更）

(2) 次年度への提言

- ・教育改善報告書の形式が変更され，前年度の教育改善委員会から提言した課題の検討・改善状況の点検が行われなくなった。この点件は，提言に対する改善状況を確認する上で必要であり，各委員会等の活動計画に織り込むなどして，継続して実施していただきたい。
- ・活動内容の点検が行われていない項目があり，実施が望まれる。

2-9 男女共同参画推進室

令和2年度 男女共同参画推進室の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
男女共同参画推進室	男女共同参画 推進室長	1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進 2. 男女共同参画の意識啓発 3. 女性教職員に対する労働環境支援

1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進
 - ・在学生のキャリア支援のための施策検討
 - ・女子中学生の入学支援施策検討
 - ・アンケートによる環境調査
2. 男女共同参画の意識啓発
 - ・ダイバーシティ関連講演会の実施
 - ・学会等の学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内
 - ・男女共同参画関連 web site の開設
3. 女性教職員に対する労働環境支援
 - ・女性教職員就業支援 インターンシップ制度の準備
 - ・教職員アンケート (1. のアンケートに準ずる)

令和2年度 男女共同参画推進室の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
男女共同参画推進室	男女共同参画推進室長	1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進 2. 男女共同参画の意識啓発 3. 女性教職員に対する労働環境支援

1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進

- ・在学生のキャリア支援のための施策検討
 - 各学科において、本校 OG 等を招いたキャリアセミナーを開催した。在学生在が卒業生からワークライフバランスや、実際の業務内容について学ぶ機会を提供できた。
- ・女子中学生の入学支援施策検討
 - これまでになかった女子中学生向けのリーフレットを作成し、在学生の協力を得て県下の77校に配布した。配布先の中学校から概ね好評を得て、追加の送付依頼や、配達を請け負ってくれた学生への中学生向け進路講演会への依頼があった。入学者説明会でのアンケートでは、入学者予定者のうち46名がリーフレットを見た、との回答をしており、配布初年度としては十分な成果が出たと考える。
- ・アンケートによる環境調査
 - 学内を対象に女子学生の学習環境調査のアンケートを実施することを考え過去のアンケートデータを整理したが、今年度コロナ禍において質問の整理が困難であること、同様なアンケートを毎年実施することが難しいことから、次年度中の実施を目指し検討を続けることとした。

2. 男女共同参画の意識啓発

- ・ダイバーシティ関連講演会の実施
 - 信州大学男女共同参画推進センターのセンター長に依頼し、教育機関における男女共同参画の取り組みに関する講演会を実施した。校内から82名の聴講があり、多くのコメントも寄せられた。
- ・学会等の学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内
 - 機構、自治体、学会などから寄せられる、セミナー、助成金情報、女子学生を対象としたイベントの案内などを適宜情報提供した。今後より効果的な案内方法について考える必要がある。
- ・男女共同参画関連 web site の開設
 - 女子中学生向けリーフレットの配布に間に合わせる形で学校 web site に男女共同参画推進室のページを開設した。学内教職員、一般向けにも必要な情報が入手できる構成とした。今後適宜情報を追加、更新していく。

3. 女性教職員に対する労働環境支援

- ・女性教職員就業支援 インターンシップ制度の準備
 - 女性教職就業支援として、大学生、大学院生、既卒者向けの本校におけるインターンシップ制度の要項を作成した。本年度コロナのため実施しなかったが、次年度より要項に沿って実施を試みる。
- ・教職員アンケート
 - Teams form を用いて全教員を対象に実施し、課題の抽出を目的に記述式で実施することとした。今年度最終週に実施し、次年度の計画に反映することを予定している。

令和2年度 男女共同参画推進室の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 男女共同参画推進室

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進	・在学生のキャリア支援のための施策検討	◎	・第4回男女共同参画推進室会議資料 No.5 (R2.7.17) ・第10回男女共同参画推進室会議資料 No.2 (R3.1.29)
	・女子中学生の入学支援施策検討	◎	・第4回男女共同参画推進室会議資料 No.2 (R2.7.17) ・第5回男女共同参画推進室会議資料 No.1 (R2.8.28)
	・アンケートによる環境調査	○	・第8回男女共同参画推進室会議資料 No.7 (R2.11.27)
2. 男女共同参画の意識啓発	・ダイバーシティ関連講演会の実施	○	・第4回男女共同参画推進室会議資料 No.4 (R2.7.17) ・第5回男女共同参画推進室会議資料 No.2 (R2.8.28) R2.9.14, 14:30~16:00 第3回FD研修会実施
	・学会等の学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内	○	・第7回男女共同参画推進室会議資料 No.3 (R2.10.28) ・第8回男女共同参画推進室会議資料 No.5, 6 (R2.11.27)
	・男女共同参画関連 web site の開設	○	・第3回男女共同参画推進室会議資料 No.6 (R2.6.19) ・第5回男女共同参画推進室会議資料 No.3 (R2.8.28)
3. 女性教職員に対する労働環境支援	・女性教職員就業支援 インターンシップ制度の準備 ・教職員アンケート	△	・第3回男女共同参画推進室会議資料 No.7 (R2.6.19)

(2) 次年度への提言

- ・教職員アンケートの実績が必要である。
- ・女性教職員就業支援 インターンシップの実績が必要である。

3. 令和2年度における各種点検報告

3-1 高専機関別認証評価結果に対する対応

1. 高専機関別認証評価結果 【改善を要する点】

平成30年度機関別認証評価の結果以下の改善が要求された。

【改善を要する点】

基準1

- ① 毎年、中期目標・中期計画に基づく年度計画の実績報告を中心とした自己点検・評価を実施しているものの、学校教育法第109条第1項に規定される学校の総合的な状況についての定期的な自己点検・評価を実施するための基準・項目等の設定は十分であるとはいえない。
- ② 準学士課程及び専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、求める学生像は明示されているものの、そのような学生を実際に受入れるための「入学者選抜の基本方針」が明確に示されていない。

基準5

- ③ 一部の授業科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている。また、一部の授業科目において学習成果の評価に不適切な点がみられる。

2. 改善を要する点の改善

2-1 自己点検・評価の実施への改善 【内部質保証システム】

上記①の改善案として、自己点検・評価を実施するための基準・項目等の設定【内部質保証システム】し、教育の質保証のための各種点検・改善システムを構築する。

教育の質保証のための各種点検・改善システムは、以下の6つの点検・改善システムを含み、それぞれ点検担当者をおく。

表1 教育の質保証のための各種点検・改善システム

	点検者	点検・改善システム	報告・公開方法
1	第三者評価対応委員会	機関別認証評価項目に準ずる点検システム	外部評価報告書
2	教育改善委員会	年度計画項目による点検システム	外部評価報告書
3	執行会議委員会	DP,CP,APの点検・改善システム	未定
4	教育改善委員会	各委員会の点検・改善システム	教育改善報告書
5	教育改善委員会	授業改善システム	教育改善報告書
6	教育改善委員会	学生への支援体制点検システム	教育改善報告書

表1の各種点検・改善システムを、参考資料として付録1【教育の質保証のための各種点検・改善システム】に示す。

2-2 アドミッション・ポリシーの改善

指摘事項として

- ・「入学者選抜の基本方針」が明確に示されていない。
- ・学力の3要素（1知識・技能、2思考力・判断力・表現力等の能力、3主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）がない。

があり、上記②の改善案として、新しいアドミッション・ポリシーの案を、教務委員会と専攻科運営委員会にお願いした。執行会議により、学科改組があるため、マイナーチェンジに留め、来年度に新学科の3ポリシーを改めて作成することとした。

2-3 複数年度にわたり同一の試験問題が出題への改善

上記③の改善案として、同一試験問題出題に関しては、教務委員会、専攻科運営委員会で、メールや試験前の教員会議において、同一のシラバスの内容になっていたとしても、複数年度にわたり同一の試験問題を出题することがないように改善を全教員に依頼した。また、学習成果の評価においても、公平性を欠くことがなく、適切に行うよう、メールや試験前の教員会議において依頼した。

また、後期中間達成度試験作成時において、以下のメールを全教員に配信し、前年度の試験と同一問題でないかの確認を教育改善委員が行った。

教員各位

令和2年11月19日
教育改善委員長

試験問題の確認について、連絡します。

平成30年度機関別認証評価において、下記の指摘がありました。

基準5

- 3 一部の授業科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている。また、一部の授業科目において学習成果の評価に不適切な点がみられる。

この前半の同一の試験問題の部分に関して、試験問題の確認をすることが執行部で決定されています。

このため、今度の後期中間達成度試験と昨年度の同試験を比較し、同一でないか確認します。

対象は本科の後期中間達成度試験問題で、昨年度実施し、かつ今年度実施する科目です。各科の教育改善委員から連絡がありますので、該当の方は、今年度の試験問題作成時に、昨年度と今年度の試験問題を教育改善委員に提出してください。

以上、よろしく願いいたします。

3-2 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果

1. 卒業生および企業に対するアンケート調査の実施方針

本調査は平成 19 年 5 月 11 日に教育改善委員会で決定された申し合わせ事項も基づいて実施するものである。申し合わせ事項の必要部分を以下に抜粋する。

1-1 目的

- (1) 本校の本科卒業生および専攻科修了生が、在学時に身につけた学力、資質、能力に満足しているか、また、これらが（修了）後に仕事等で役に立っているかの意識について把握する。
- (2) 本校の本科卒業生および専攻科修了生が、在学時に身につけた学力、資質、能力が、社会においてどのような評価を得ているか把握する。
- (3) 本校の教育の成果（卒業生の満足度、社会の評価等）を点検することにより、その後の教育改善に役立てる。

1-2 内容

- (1) 調査対象者
 - ・長野高専本科卒業生
 - ・長野高専専攻科修了生
 - ・長野高専本科卒業生と専攻科修了生の就職先および進学先機関
- (2) 調査回数
 - ・原則として、5年毎に一回実施する。

1-3 令和元年度実施に関する基本方針

令和元年度実施に関する基本方針

1. 平成 28 年および 29 年 3 月専攻科生修了生と本科卒業生もアンケート調査の対象とする。
2. 専攻科修了生は全員（H27 年度 29 名、H28 年度 26 名、合計 55 名）とし、本科卒業生については各学科 20 名、全数 255 名とする。
3. 人選については本科卒業生に対する就職者・進学者 20 名の内訳は学科に一任する。
4. 人選された卒業生の就職先および進学先機関にアンケート調査を依頼する。
5. アンケート内容は別紙の通りとする。
6. 実施時期、令和元年 12 月から令和 2 年 1 月の間に実施する。
7. アンケート発送、回収の業務は事務部にお願いする。
8. 本調査の集計・分析・点検は当委員会が行う。

2. 実施方法

前記基本方針により、アンケート項目を決定し、令和元年 12 月末の住所が確認できた修了生および卒業生に対してアンケートを 1 月 7 日に送付した。内訳は修了生 52 名、卒業生 209 名の合計 261 名である。回答の締切りを令和 2 年 2 月 14 日と設定した。回収総数は、50 通であった。

参考資料として付録 2 に、教育改善委員会から提出された【令和元年度 卒業生および企業等に対するアンケート調査実施結果】を示す。

3. アンケート集計結果に基づく分析

3.1 教育目標の達成度に関する分析

アンケート設問 I（修了生・卒業生用、企業・大学等用両者）の項目 1～6 は、本校修了あるいは卒業時における本校の教育目標に対する達成度の指標である。各項目 1～6 と教育目標の対応を表 5.1 に示す。なお、教育目標 G に関する検討は後にゆずる。

表 5.1 設問1の項目と対応する教育目標

項目	設問	対応する教育目標
項目1	周囲の同僚あるいは学生と比較して専門的な知識や能力の素養は	D
項目2	周囲の同僚あるいは学生と比較して、数学・自然科学・情報技術など技術者としての素養に関する知識は	C
項目3	周囲の同僚あるいは学生と比較して、語学やコミュニケーションに関する能力は	F
項目4	周囲の同僚あるいは学生と比較して、問題や課題に対して様々な知識を用いて解決する能力や姿勢は	E
項目5	周囲の同僚あるいは学生と比較して、社会的な倫理観については	A, B
項目6	周囲の同僚あるいは学生と比較して、物事を表現したりプレゼンテーションを行う能力は	F

図 5.1 は修了生・卒業生アンケート, 図 5.2 は企業・大学等アンケートそれぞれの結果における設問 I の項目 1~6 を, 各教育目標別に示したものである. なお項目 3 および 6 については合算して示した.

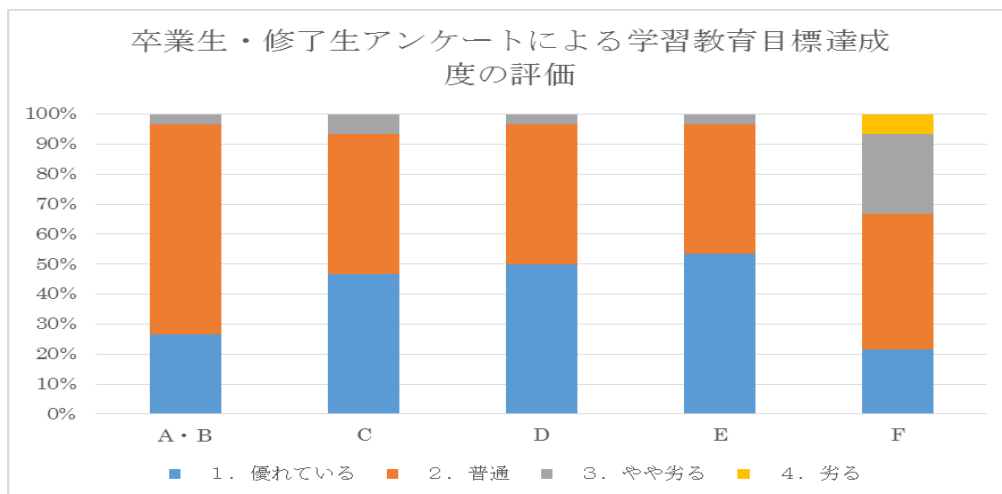


図 5.1 修了生・卒業生アンケートによる教育目標達成度の評価

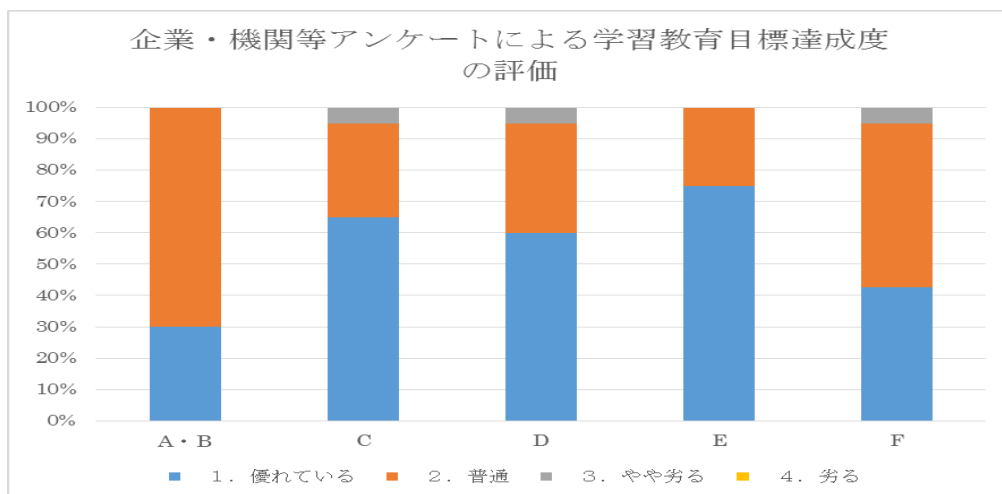


図 5.2 企業・機関等アンケートによる教育目標達成度の評価

3.2 修了および卒業後からの教育内容と継続的な学習状況に関する分析

周囲に比較して専門的な知識や能力の素養ならびに数学・自然科学・情報技術など技術者としての素養、問題や課題に対して様々な知識を用いて解決する能力や姿勢は優れている回答が多く、専門的な知識や能力、数学自然科学、問題解決力は周囲に対して優れていると回答した卒業生が多く、所属している企業や大学も同様の評価をしている。

一方で、卒業時に語学やコミュニケーションに関する能力はやや劣る、劣ると回答した卒業生が多い。しかし、入社後あるいは入学後は努力を重ねていると回答した割合が増え、所属している企業や大学からは優れている、普通の回答が多い。このため、現在行っているグローバル教育に力を入れながら継続することが望まれる。

物事を表現したりプレゼンテーションを行う能力は、現在は PBL 科目や卒業研究等の個々の科目の中で実施され、プレゼンテーションスキルを上げるための体制が本校にはないため、プレゼンテーションスキルに特化した科目を設置する必要がある。

他の教育機関の卒業生と高専卒業生の違いがあると回答した割合が 6 割あり、コミュニケーション能力や、待遇・昇進速度・給与などが具体的に挙げられている。

3.3 修了生や卒業生に要求されている工学専門能力について

卒業生ならびに所属している企業・機関からは、入社あるいは入学時における工学専門能力は優れていると回答が多く、入社あるいは入学後も専門的な知識が向上したという回答が多い。専門的な素養を在学時に身につけて、その後も活用できているということがわかる。一方で、出身学科で学んだ分野外の知識を必要としている回答もあり、幅広く工学専門能力を身につけるための学科横断型科目や PBL 科目の設置が望まれる。

3.4 企業・機関等からの自由記述意見について

工学専門能力について高い評価がある一方で、自主的に新しい技術に取り組む姿勢やコミュニケーション能力が不足しているという回答もある。

3.5 提言

設問ならびに自由記述欄を通して、数学・自然科学・情報技術や工学専門能力についてはいずれも高い評価があり、基礎能力を身につけるためのカリキュラムは継続する。一方で、語学やコミュニケーション能力、幅広い工学的な知識の習得については不足している回答がある。現在行っているグローバル教育の拡充や、学科横断型の科目や PBL 実習の設置が必要である。

3-3 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検

令和2年度 学習・教育目標の達成度自己評価調査票は教務委員会によりアンケートを実施し、集計結果が教務委員会で報告された。

学習・教育目標の達成度自己評価調査票の集計結果

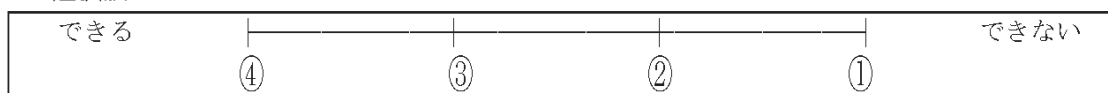
2021.8.12 機械工学科 北山

1. 設問

1.1 質問

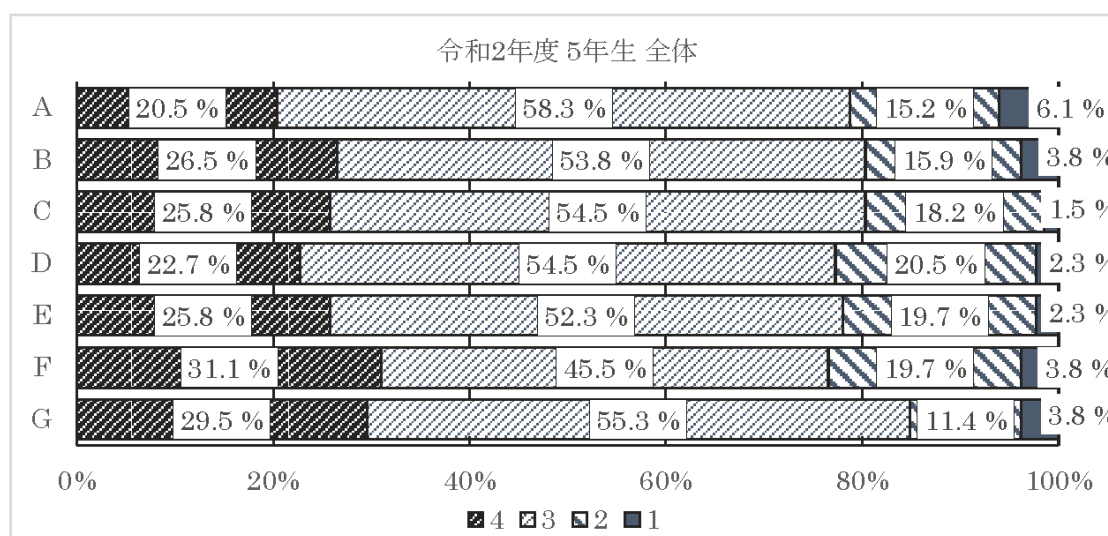
種類	学習・教育目標
A	世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討議し、多面的に物事を考え、行動できますか？
B	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べることができますか？
C	機械、電気電子、情報または土木の工学分野に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できますか？
D	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できますか？
E	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決できますか？
F	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討議ができますか？
G	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行できますか？

1.2 選択肢

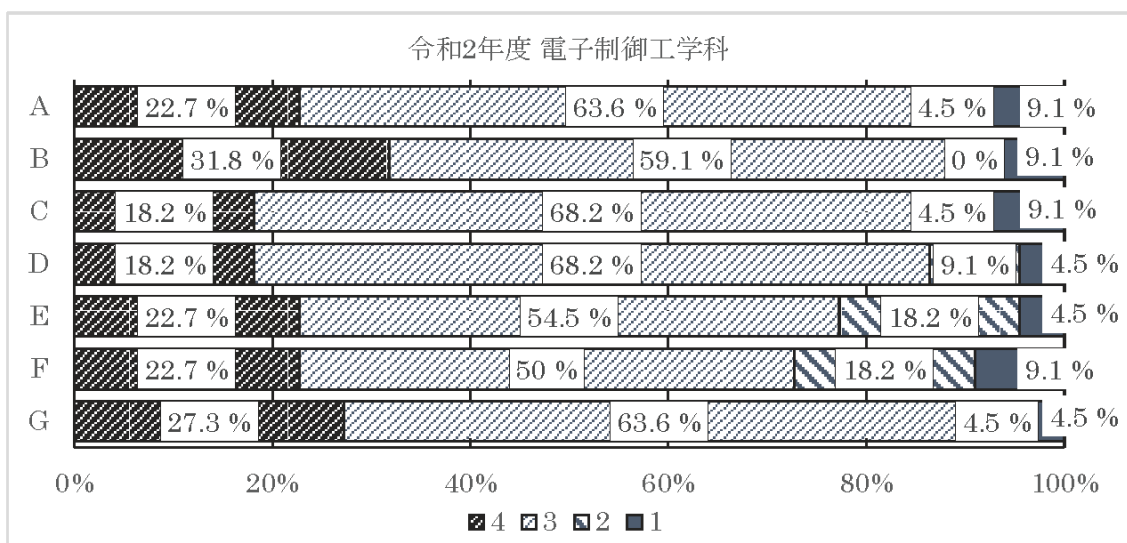
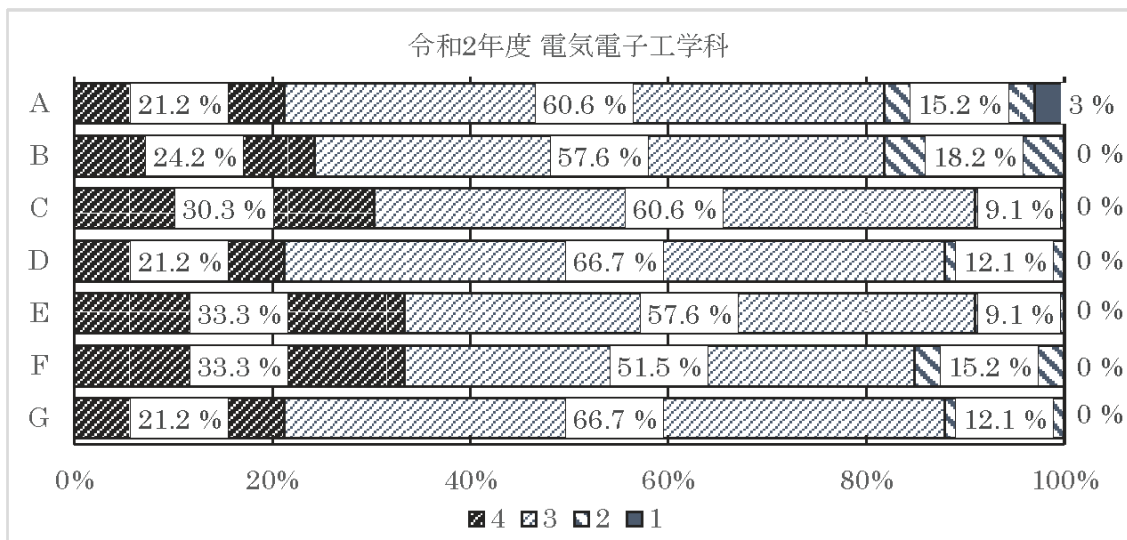
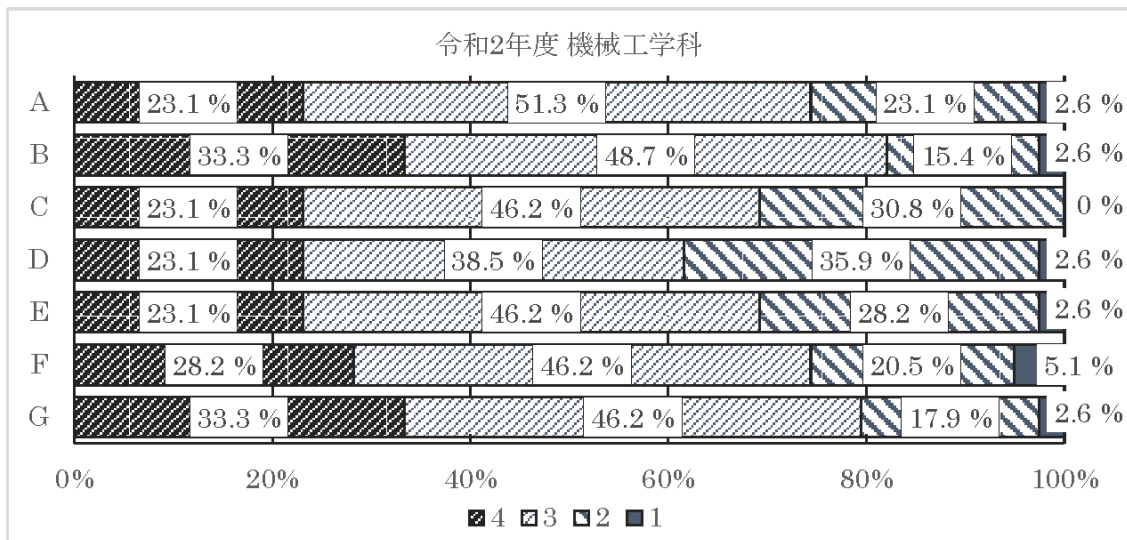


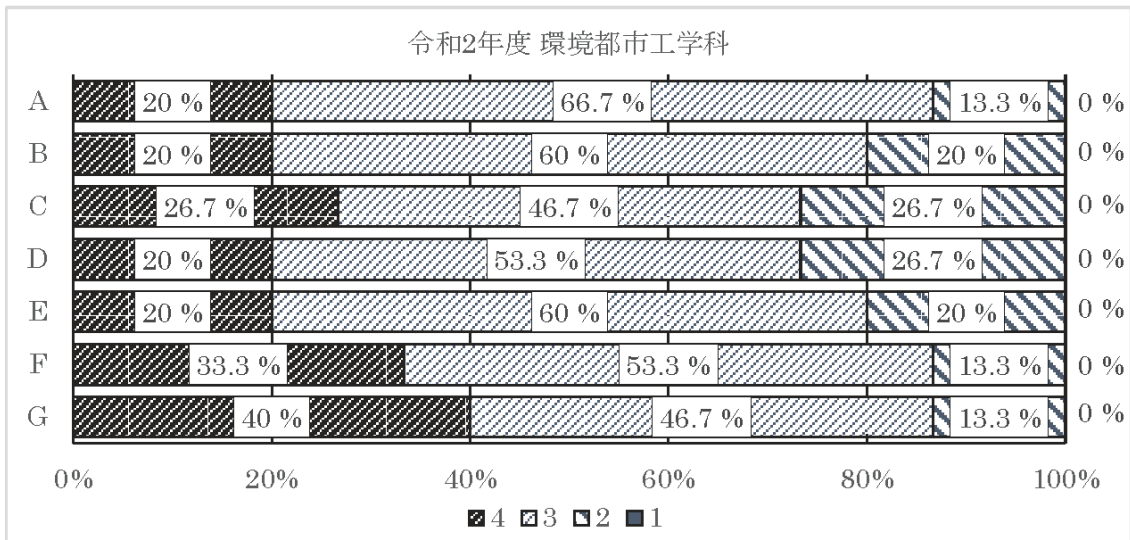
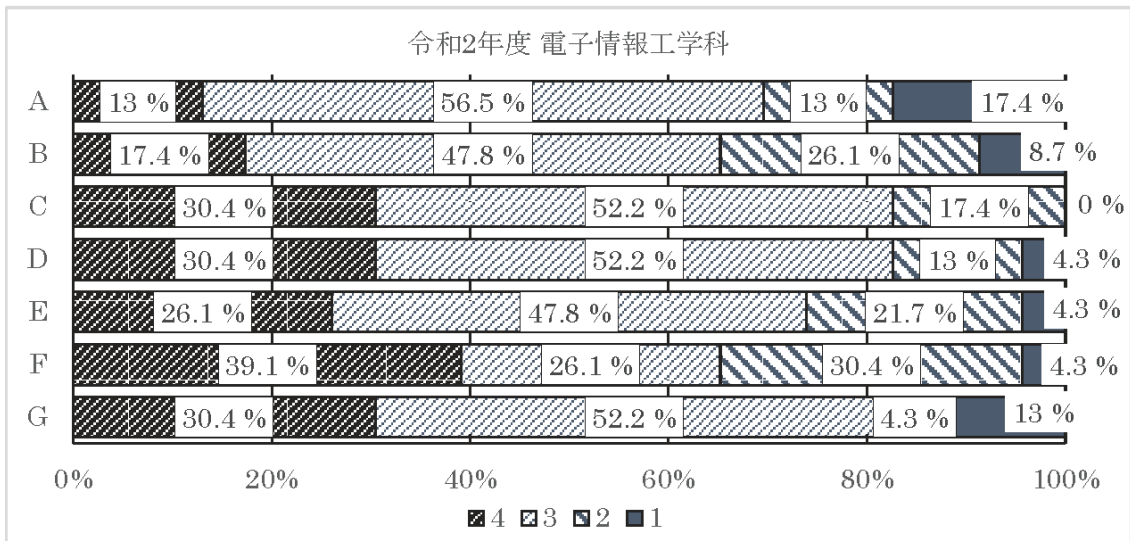
2. 全体の集計結果

M : 39名, E : 33名, S : 22名, J : 23名, C : 15名, 全体 : 132名



3. 学科ごとの集計結果





○分析

令和2年度の5年生は、学習教育目標のA~Gの全てにおいて、8割の学生が3以上のスコアを付けており、達成度が高くなっている。学科毎の達成度を詳しく見ると、学習教育目標のA~Gの数値にばらつきがある。機械工学科の専門分野である学習教育目標Dでやや低い傾向がある。電気電子工学科と電子制御工学科では全体的に達成度が高い。また、電子情報工学科の、英語などの語学系科目が該当する学習教育目標Fでもやや低い傾向がある。環境都市工学科のCとDでもやや低い傾向が見られた。学習教育目標のC~Eは、専門学科で授業科目が異なり、レベルも差があると考えられる。学生自ら学習に取り組めるような雰囲気作りや、専門科目や英語科目の授業改善が望まれる。

3-4 学生との意見交換会に関する点検

(1) 本科学生との意見交換会の点検

新型コロナウイルス感染拡大のため令和2年度は実施しなかった。

(2) 専攻科学生との意見交換会の点検

2021.3.31

令和2年度専攻科生との意見交換会 実施報告

専攻科運営委員会

1. 開催日時および会場

開催日時：令和3年3月8日（月）13:00～13:55

会場：オンライン開催（Microsoft Teams で開催）

参加者：専攻科運営委員、専攻科1・2年生 計24名

2. アンケート集計結果

実施期間：2月26日（金）～3月5日（金）

回答結果：別紙の通り

3. 意見交換の概要

3.1 アンケート結果に対する教員からのコメント

- ・ 学外実習について、今年度は県内で実施してほしいと依頼したが、特別研究等の関係で3名が県外で実習した。感染状況を注視しながら実施してもらったが、県外の3か所は派遣中止基準以下であったため最後まで実施できた。
- ・ 専攻科生の女子更衣室のロッカーの使用について、学生主事や学生係にも伝えたい。
- ・ 本科では12月にキャリアコンサルタントによる就活イベントと、1月に卒業生講演会を実施している。専攻科生向けのイベントについて希望があったら教えてほしい。
- ・ デスクトップPCからプリンタへ印刷ができないことについて、共用室のことでしょうか。学生の所属の学科に分けてネットワーク管理をしている。情報教育センターに対して、どこでも使えるようにしてほしいと要望している。

3.2 意見交換

・ 特別研究の環境等について

質問：研究室に人数が偏るとどのような支障があるのか。

回答：偏りがあると不便に感じている人がいるかもしれないが、詳細はわからない。

・ 講義について

質問：ホームページに専攻科の補講情報が掲載されていない。

回答：確認したい。

意見：オンラインで受けるか対面で受けるか選択できると良い。

回答：遠隔用の天吊りカメラが設置される。欠席する学生への対応もできるので、授業担当教員に相談してほしい。

意見：体を動かす機会が欲しい。

意見：本科と同じように中国語やハンゲルなどを勉強したかった。

・学外実習と進路について

質問：学外実習中に就職活動が重なり、非常に厳しかった。コロナの影響かはわからないが、全体的に就職活動が早まっているため、学外実習の時期は見直したほうがいい。10月からは遅いが、9月からでも遅いと思う。前期などへの移行は考えないのか？

回答：4月に企業に調査を行っているので、前期から開始するのは企業との調整の関係で難しい。本科で実施する時期もあり、企業に負担もかけられない。2年の前期も学士の関係があるため、研究活動を最優先にしたい。

質問：実習の期間を短くするなど調整できないか。

回答：学外実習は実験の代替なので、学外実習を減らして、後期に講義と合わせて実験を設定することは可能である。

質問：学外実習は現在必修という形になっているが、もしそう言った要望があるようなら選択科目のようにするというのは難しいのでしょうか？

回答：過去にも意見があった。学外実習を選択化すると、12単位分を後期に講義や実験を設定する必要がある。

質問：今年度のように学外実習の代わりに研究で代替することは難しいのでしょうか？

回答：共通の評価ができるかが難しいところである。今回は特別対応である。特別研究との差がなくなってくると問題がある。実験科目を設定するなど、今後検討していきたい。

3-5 令和2年度学生に対する満足度に関する アンケート調査実施報告書の点検と出された改善点の整理

学生からいくつかの項目の満足度を調査し、改善すべき点を把握し、今後の学校教育の改善に役立て行くために、令和3年2月1日（月）～2月8日（月）にアンケート調査が実施され、その概要が報告書「令和2年度学生に対する満足度に関するアンケート調査実施報告書」にまとめられた。この報告書の内容に基づき、本校が今後取り組むべき課題は何かを以下に報告する。

1. アンケート調査の実施方法

(1) アンケート調査

実施期間 令和3年2月1日（月）～2月8日（月）

回答方法 googleフォームから回答

(2) 回答数

令和3年2月10日までに在校生、卒業・修了生あわせて336名から回答を得た。

2. 学生からの主な要望

- PCとサブPCの2台はネットワークに登録できるようにしてほしい(タブレット、ラズパイ含む)
- 図書館の開館時間が短い。また、土日も開館して欲しい
- 図書館にプリンターを設置してほしい
- 先生方のおすすめ、または読んでおくためになる本の紹介があるといい
- 将来の支出や税金、著作権や特許権などの授業があってもいいと思う
- 担任の先生以外、キャリア教育をしてくれる先生はいるのかどうか不明です
- さまざまな不安に対する相談や助言などを行う体制は整っているが、きっかけが掴めない
- 寮の衛生環境をなによりも優先して改善してほしい
- 最低限の水準が低すぎるかあるいはないとしたら学生はより勉強しなくなり、到達度に差がつき、次第に学習の到達度は全体的に下がっていくと考えられる
- 進路支援室の過去問が古いです。最近の試験問題がない。最近では直近3年分の問題をウェブ上で配布している大学が多いので毎年そこからダウンロードして追加してほしい。(3年経つとウェブ上から消えてしまう)

参考資料として付録3に、教育改善委員会から提出された【令和2年度学生に対する満足度に関するアンケート調査実施報告書】を示す。

3-6 令和2年度参与会の報告書の点検と出された改善点の整理

令和2年2月5日（水）に第16回長野高専参与会が実施され、その概要が報告書「第16回 長野工業高等専門学校参与会議事概要」にまとめられている。この報告書の内容に基づき、本校が今後取り組むべき課題は何か、以下に報告する。

1. 参与会の概要

(1) 出席者

- ・ 参与会のメンバー → 9名
- ・ 本校関係者 → 校長他 16名(内 オブザーバー 8名)

(2) テーマ → 「第4期中期計画について」

(3) 協議題

- 1) 第4期中期計画の説明について
- 2) 国際化についての取り組みの現状について
- 3) マネジメント改革（教職員の業務軽減）の現状について

(4) 議事内容

参与会会長である天野良彦信州大学工学部長が議長となり、議事が進行された。上記の協議題ごとに本校担当者より配布資料に基づいた説明があり、その後質疑応答が行われ、参与会のメンバーよりいくつかの貴重な提言をいただいた。

2. 今後の課題

参与会の質問・意見を基にして、今後本校が取り組むべき課題を整理した。

- (1) 安全安心、および女子学生・女性教員確保の検討。
- (2) 留年・留学・退学者対策の検討。
- (3) グローバルエンジニアの検討。
- (4) 海外研修に関する事項の検討。
- (5) 寮業務の負担軽減、および業務委託の改善に関する事項の検討。
- (6) 改組に関する事項の検討。
- (7) 自己点検・評価実施方法の検討。

なお、長野高専ホームページ 外部評価報告

<http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/out/index.php>

を参照されたし。

3. 令和2年度の参与会からの要望等

令和2年度の参与会が令和3年2月12日(金)に開催され以下の要望等を頂いた。

- 長野県に就職してここに住む、永住が目標になる。工夫して取組んでほしい。
- リモートでの実習は、ただ文字を見るだけでなく動画で見せるなど工夫してほしい。
- リモートだと学生間、学生と先生、外部とのコミュニケーションがなくならないか、人間形成上大事な要点なので打開策を考えてほしい。
- 遠隔授業で、教育に遅れが出ている中、高専の教育レベルの確保してほしい。
- 夏休みのインターンシップがなくなったことで不安がある。いろいろな面でサポートしてほしい。
- 改組で希望したコースに入れなかった学生へのケアを考えてほしい。
- 国際寮を、信大と合同で、研修などに利用できるようにしてほしい。
- 小学生が、高等教育を見て学び、意欲を育てることもやってほしい。
- 改組後は、副専攻が卒業条件になり、専門の知識を深めてより幅広い人材育成をしてほしい。

3-7 実施済み研修会の効果の点検およびその改善

令和2年度には4回のFD研修会が開催された。研修会の効果を点検するため、FD研修会終了後に参加者に対してアンケート調査を実施した。研修会の内容が活かされているかどうか、開催回ごとに分析する。

(1) 第1回「リアルタイム型授業、オンデマンド型授業、課題配信型授業ほかについて」
(4/14実施, 83名参加)

新型コロナウイルス感染防止のため、4月11日から4月25日まで臨時休校、4月27日から遠隔授業を開始した。それを前に本研修会が行われたが、出席者が多く、質疑も多数あり、関心が高かった。本研修会によって、リアルタイム型授業など遠隔授業の種類、実施方法、準備について知ることができ、有効な研修会であった。なお、アンケート調査は実施していない。

(2) 第2回「リアルタイム型授業、オンデマンド型授業、課題配信型授業ほかについて」
(4/21実施, 77名参加)

遠隔授業を実施した先生から実際の授業のやり方などを説明していただいた。遠隔授業に関する2回目の研修会であるが、第1回目と同様に参加者が多く、多数の質疑が行われ、関心が高かった。遠隔授業の実際の様子を知ることができ、遠隔授業の準備のために有効な研修会であった。なお、アンケート調査は実施していない。

(3) 第3回「男女共同参画推進に関する意識啓発 なぜ「女性研究者支援」かー信州大学における男女共同参画推進この10年ー」(9/14実施, 77名参加)

テーマ設定については、あなたの求めるテーマでしたかの問いに満足が43%、やや満足が50%であり、適切なテーマであったといえる。講演内容に興味をもてたかとの問いについては、大いにもてた38%、ややもてた57%であり、興味の手てる内容であった。今後の教育活動の参考になるかについては、大いになったが34%、ややなったが61%であり、参考になる点を得られたものと思われる。男女共同参画の意識啓発を目的として研修会が実施されたが、男女共同参画の支援組織、支援活動について知る機会になったと思われる。

(4) 第4回「英語学習の楽しさを再発見する：EGPとESPの統合を目指して」
(3/11実施, 70名参加)

テーマ設定については、あなたの求めるテーマでしたかの問いに満足との回答が44%、やや満足との回答が53%であり、適切なテーマであったと考えられる。講演内容への興味については、大いにもてたが39%、ややもてたが55%であり、興味の手てる内容であったといえる。今後の教育活動の参考になるかについては、大いになったが32%、ややなったが62%であり、参考になると受け止められている。本校はグローバルエンジニア育成事業に取り組んでいるが、授業においてどのように実践していくか考える機会になったと思われる。開催時期については、適当であったが97%あったが、年間計画を立てて実施してほしいとの意見があった。

(5) まとめ

今年度は4回の研修会を実施した。遠隔授業を実施したり、男女共同参画やグローバルエンジニア育成事業に取り組んでいるが、それに対応したテーマで研修会を行ったことにより、テーマ設定や講演内容への興味など、アンケート結果は全体として高い評価になったと思われる。また、4回ともオンラインで研修会を実施し、アンケートはフォームから回答する方法をとったが、特に問題なく実施できた(アンケートは第3回、第4回で実施)。

(6) 参考資料

本校で開催されている過去9年間のFD研修会のテーマは以下の通りである。

令和元年度

- ・第1回 学習指導要領改訂で目指される学力観～教育の三つの柱と「主体的・対話的で深い学び」の関連から～
- ・第2回 教育の方法一発達・〈教師-生徒〉関係をふまえて一
- ・第3回 クラブルーム・イングリッシュ研修ーグローバルエンジニア人材育成プログラムに向けてー

- ・第4回 いじめ予防と学生のためのソーシャルワーク

平成30年度

- ・第1回 Introduction to CDIO
- ・第2回 サイバーセキュリティの重要性～攻撃の手口と対策～

平成29年度

- ・第1回 教育・研究活動における著作権
- ・第2回 モデルコアカリキュラムの実践推進—東京高専におけるカリキュラム改革
- ・第3回 授業力向上研修(CTT+のスキルを授業に取り入れ、アクティブ・ラーニング型授業へ)
- ・第4回 情報セキュリティ教育の重要性と信大での取組み

平成28年度

- ・第1回 高専卒業生アンケートから見る高専教育の地平【高専の今後】
- ・第2回 情報セキュリティに関する講話・本校におけるセキュリティインシデントの事例【情報セキュリティ】
- ・第3回 アクティブ・ラーニング【教育手法】

平成27年度

- ・第1回 科研費獲得の方法とコツ【研究費獲得】
- ・第2回 アクティブ・ラーニング【教育手法】
- ・第3回 高専卒業生キャリア調査【調査結果】

平成26年度

- ・第1回 情報モラルと情報セキュリティ【情報セキュリティ】
- ・第2回 学生の自主性を延ばす方策【教育手法】
- ・第3回 高専を取り巻く現状と新たななる高等教育機関【高専の今後】

平成25年度

- ・第1・2回 心の健康【メンタルヘルス】
- ・第3回 イノベティブジャパンプロジェクト【教育手法】

平成24年度

- ・第1回 キャリア形成支援【キャリア教育】
- ・第2回 モデルコアカリキュラム【教育手法】

平成23年度

- ・第1回 科学研究費採択数アップのための講習【研究費獲得】
- ・第2回 サンデル的対話型講義の思想と方法【教育手法】

4. 令和2年度 FD 研修会実施報告

4-1 令和2年度第1回FD研修会実施報告

1. 日程他

- 主催：教務委員会
日時：令和2年4月14日（火）14:00～16:00
場所：Microsoft teams による遠隔参加
講師：教務主事 久保田和男 教授 ほか
題目：リアルタイム型授業，オンデマンド型授業，課題配信型授業ほかについて
「遠隔教育の推進」のための講習
出席者：83名

2. 概要

下記の話があり，今後遠隔事業等を行う上で有用な内容であった。

- 1) 本校における方針説明（久保田先生）
- 2) リアルタイム型授業：クラスの学生と会議システムで繋がる（藤田先生）
- 3) オンデマンド型授業：映像を用いるが学生は必ずしも同時配信をうけない（北山先生）
- 4) 課題配信型授業：映像は用いず学生に課題を配信し，添削して返信する（林本先生）
- 5) 未着留学生の対応の現状（渡辺先生・大原先生・中山先生・二星先生）
- 6) バーチャルホームルームについて（奥村先生，北山先生）
- 7) その他
【休校期間中にやっていただきたいこと】（15～24日）
 - ・各科教務委員・担任：クラスごとにチームを作成・・・そこに担任が学生を登録
 - ・選択科目：それぞれ科目担当者がチームを作成する（17日まで）
 - ・教科担当者：遠隔教育実施への準備・・・教材研究・【遠隔授業】の試行（登録が済んだところから，24日まで，とりあえず時間割に準じておこなう．学生には予告する．）
 - ・各科（学科長）：実験・実習・卒研の扱いの検討など遠隔教育推進の【行動計画案】（24日まで）
 - ・各委員会：遠隔教育の推進に当たっての【行動計画案】（24日まで）
 - ・担任：学生支援のための調査（本当に困っている学生の洗い出し）（17日まで）
 - ・【遠隔ホームルーム】の試行（実施されたかたは担当の高桑先生に報告する）
 - ・非常勤窓口：非常勤講師への説明・指示（24日まで，早いうち）

3. 質疑

内容に関してチャットで下記の書き込みがあった。

- ・「実務訓練」も実習のように、実施時期を弾力的に検討いただけますか？
- ・電子化しなくても手元のノートを映せばよいのでは？
- ・メールでの個別答案返却は誤送信もありそうで怖いです
- ・課題のやり取りはLMSを使試用した方が良くと思います。
- ・場合によっては「ピアレビュー」も活用するのも学習効果を高める方法として有効かと思えます。
- ・ただし、Bbがかなり過負荷となっているようで、耐えうるかどうか正直心配です。
- ・Blackboardで、提出されたレポートに対して、採点してその点数のフィードバックと、赤を入れたファイルを個人毎にフィードバックすることなどもできます。
- ・すでにレポートを写真で集めて採点して、個別に返しています。Google Classroomでやっています。
- ・時間割通りにやると、兄弟で学生の場合、自宅で1台の端末を取り合うことがあるようです。

4-2 令和2年度第2回FD研修会実施報告

1. 日程他

主催：教務委員会

日時：令和2年4月21日（火）16:15～17:20

場所：Microsoft teams による遠隔参加

講師：楡井雅巳先生，藤澤義範先生，滝沢善洋先生，濱口直樹先生，久保田和男先生，

題目：リアルタイム型授業，オンデマンド型授業，課題配信型授業ほかについて

遠隔教育・授業を施行されている先生から，やり方などを学ぶ実践的なFD

出席者：77名

2. 概要

遠隔授業を施行している教員から，実際の授業の様子を話していただいた．遠隔授業の行い方などを学ぶ実践的なFDであった．

- 1) 専攻科での遠隔授業設備・施設の状況（楡井先生）
- 2) Microsoft teams によるリアルタイム遠隔授業の実践方法，Web カメラの利用，bluetooth のヘッドセットによるノイズ削減（藤澤先生）
- 3) 在宅における遠隔授業の実践例，低学年の Google classroom による遠隔授業の実践方法，リアルタイム授業に動画の問題点，ネットワークの速度の問題，（滝沢先生）
- 4) オンデマンドによる遠隔授業の実践例，Google classroom と meet の利用（濱口先生）
- 5) リアルタイム遠隔授業の実践，Microsoft forms による確認テストの挿入，非常勤講師による遠隔授業ほか（久保田先生）
- 6) その他
遠隔授業の注意点，ビデオ撮影における著作権の問題等

3. 質疑

内容に関してチャットで下記の書き込みがあった．

- ・遠隔教育無線が頻りに切れましたので，遠隔授業を行う PC は有線にしましょう．
- ・回線速度は <https://fast.com> を開くと簡単に測定できます．開くとダウンロード速度が測定されます．ダウンロード速度の測定が終わると[詳細を表示]というボタンが出てそこを押すとアップロード速度も測定できます．
- ・学生の nagano.kosen-ac.jp のアドレスは，g.nagano-nct.ac.jp に転送されるように設定しましたので，会議を予約すれば，学生のメアドに通知されると思います．
- ・担任は電話連絡をとということですが，学生の電話番号はどこで分かりますか？
- ・担任からの連絡は在宅の場合に連絡先の取り扱いはどのようにしますか？

4-3 令和2年度第3回FD研修会実施報告

1. 研修会の日程等

日時：令和2年9月14日（月）14時30分～16時

場所：web会議システムによるオンライン，リアルタイム講演，Microsoft Teams

講師：信州大学 男女共同参画推進センター長・理学部 准教授 中島美帆 先生

テーマ：男女共同参画推進に関する意識啓発 なぜ「女性研究者支援」か—信州大学における男女共同参画推進この10年—

参加者：（77名）（教員（53名）・技術職員（9名）・事務職員（15名））

2. 質疑応答（6件）

① 女性研究者等支援部門において、研究者が補助者を選ぶときの制限について。

② 意識啓発部門における自由参加について。

③ タコ足大学におけるセミナー開催方法について。

④ 15テーマはどこで参加できるかについて。

⑤ 研究者補助者制度の利用方法について。

⑥ 学会への研究者補助者の参加について。

・アンケート：（56件）

3. 令和2年度第3回FD研修会 アンケート集計

アンケート（いずれかの選択肢の番号に○を付けて下さい）

項目1：あなたは学校が用意したFD以外に教育技術向上のための活動をしていますか。

1：している（50%）*下記から選んでください。

（講習会・セミナー参加，文献調査，ディスカッション，その他（ ））

（20名）（11名）（4名）（0名）

2：していない（50%）

項目2：あなたの求めるテーマでしたか。

1：満足（43%）

2：やや満足（50%）

3：不満足（7%）

項目3：今回の内容に興味をもてましたか。

1：大いにもてた（38%）

2：やかもてた（57%）

3：もてなかった（4%）

項目4：今後の教育活動の参考になりましたか。

1：大いになった（34%）

2：ややなった（61%）

3：ならなかった（4%）

項目5：開催時期は適当でしたか。

1：適当であった（98%）

2：その他の時期がよい

（2%）*下記に時期を記載ください。

・※別紙アンケート参照

項目6：今後のFD研修会取り上げてほしいテーマ，ご希望，ご意見などありましたら，ご記入ください（自由記述）

・※別紙アンケート参照

4-4 令和2年度第4回FD研修会実施報告

1. 研修会概要

主催：グローバルエンジニア育成センター

日時：令和3年3月11日（木）13:00～14:30

場所：web会議システムによるオンライン，リアルタイム講演配信 Microsoft teams

講師：東京経済大学 経営学部グローバルビジネス学科 准教授 麻生 雅樹 先生

題目：英語学習の楽しさを再発見する：EGPとESPの統合を目指して

出席者：70名

2. 講演内容

1) 課題 英語教育をどう充実させるか

- ・英語教育の問題点
- ・将来役立つ授業 EGP, ESP

EGP：一般英語 ESP：専門英語

2) 授業実践例

- ・EGPモデル

楽しみながら英語でコミュニケーションを行うことを目標とした。コミュニケーション能力が高まったかについては、EGPモデルでは達成できていない。

- ・ESPモデル

保育現場における早期英語教育の実践的な方法や手段を学ぶことを目標とした。絵本の読み聞かせ、絵本の製作などをグループワークで行った。授業評価アンケートは、ESPではほぼ満点に近い。この実施例は成功であった。

- ・EGP変形モデル

既習の知識を確認し、4スキルの練習を通してコミュニケーションを行うことを目標とした。授業に関するアンケートを実施し、映画、音楽、ネイティブの表現を学びたいなどの希望があり、それを取り入れて授業を行った。学生は、今後学びたいこととして、文法、単語を上げており、英語を学びたいと思うようになった。授業アンケートでは反響が大きかった。

3) まとめ

- ・EGPだけで興味を持たせるのは難しい
- ・専門性や興味を取り入れると学習意欲が非常に上がる
- ・ESPは学生の反応は良いが、それだけで英語の基礎力を上げるのは難しい
- ・英語学習の楽しさを発見するために、ESPからEGPという流れもある
- ・EGPとESPの相互作用ができるかどうか楽しさ・役立つ英語学習のカギ

4) おわりに

- ・EGPとESPの統合を目指すために
基礎学習の時期に、専門科目でESPを取り入れることが重要ではないか

5) 質疑・コメント

- ・コメント：物理について英語で資料が作られネットに上がっており、ESPに使えると思う。動画で面白いものがあり、日本語にしないで見せ、実際にやってみて表現してみるということが考えられる。

- ・Q1：アクティブラーニングやグループ学習の評価はどのように行っていますか？

A1：課題を中心に課題の提出で評価している。作業シートや振り返りシートがある。英語力の到達は評価していない。どのくらい取り組んだかなどをこれらのシートで評価している。

- ・Q2：映画を授業で用いる場合、時間が2時間など長いと思うがどうしていますか？

A2：よく使う表現など、ある場面を切り取って使う（2分ぐらい）。映画のどの部分を使うか準備がいる。

- ・Q3：ESPとEGPの両方を使うとき、低学年にESPを行うときに気を付けることは何ですか？

A3：ESPを行くときに、英語を押し付けないようにした。ESPとEGPを1つの授業の中で使い分ける。英語しか使わないときと何かを学ぶ場を設ける。今日のテーマはこれだというものを与える。グループ発表をする。英語で調べさせる。

3. アンケート集計結果

43名から回答があった。

項目 1. あなたは学校が用意した FD 以外に教育技術向上のための活動をしていますか

- ・している：72%
(講習会・セミナー参加：16名，文献調査：11名，ディスカッション：2名，
その他：1名「研究として」)
- ・していない：28%

項目 2. 今回の FD 講習会はあなたの求めるテーマでしたか

- ・満足：44%
- ・やや満足：53%
- ・不満：2%

項目 3. 今回の内容に興味をもてましたか

- ・大いにもてた：39%
- ・ややもてた：55%
- ・もてなかった：4%

項目 4. 今後の教育活動の参考になりましたか

- ・大いになった：32%
- ・ややなった：62%
- ・ならなかった：4%

項目 5. 本日の FD 研修会の講演を聴いた感想をお書き下さい

- ・旧・新学生指導要領の比較や、課題についての説明がわかり易かったです。
- ・参考になりました。
- ・ESP から EGP という話は、関西大、大阪工業大などの教育論文で言われているのですが、高専での ESP だと、高学年の教育になりがちですが、低学年からの ESP は、映画、音楽など趣向性が高いものになりがちで、多くの学生の興味の対象にするのが難しいと思います。何か成功例があれば知りたい。
- ・教科は異なっても工夫すべき点は変わらないと感じた。
- ・若い先生方、頑張ってくださいという感じです。
- ・ESP と EGP を融合させた英語教育が有効性であることがよく理解できた
- ・実践的な取り組みについて非常に参考になった。
- ・大変有意義な時間でした。
- ・工夫の仕方について参考になった
- ・短期大学での取り組みについてよくわかった。
- ・やはりまず自分が英語が得意にならないと思いました
- ・本の読み聞かせ（グループワーク）を通じて英語に「興味を持たせる」という手法が大変参考になりました。
- ・講演で紹介してくださった活動自体は、興味深く、良い事と思う。しかし、今回の講演で紹介してくださった事柄では、自身の専門科目で実施するには、距離があると思われる。
- ・学校全体の研修としてよい機会であったと思います。
- ・授業に英語を取り入れるには、まず授業改善し学生参加型の授業にしなければいけないと思いました。
- ・英語学習の到達度の評価はやはり難しそう。
- ・ESP と EGP のハイブリット型が高専教育にとって理想的だということがわかりました。「個人の趣味の領域に惹きつけると学習意欲があがる」というコメントに深くうなずいていました。とても丁寧な解説と未来予想図を提示してくださり、ありがとうございました。
- ・課題選定が大変参考になりました。
- ・大変参考になりました。ありがとうございました。私自身の英語に自信がないため、練習などは必要かと思いますが、授業に取り入れてみたいと思います。
- ・授業の参考になった
- ・自分の留学の経験から、ESP から EGP という流れはエンジニアが英語を利用したり、必要性を感

じたりするには一番自然だと感じていました。海外では ESP 的に偏りのある英語や日本人的な発音を個性や知性と受け取ってくれ、そこから交流が始まることが多くあったので日本の学校でその経験ができるの良いと思います。"

- ・"楽しくためになる英語"が印象的でした。
- ・専門科目に対しても感心が向いていない、やる意義を考えることに追い付いていない学生も多い現状を顧みると、クラスルームイングリッシュ以前にやるべきことがまだまだ多いように感じた
- ・幼児英語教育での実践はとても有効的で大いに参考になりました。幼児を対象とした内容は、もともと楽しさや平易な内容がベースであるので、その要素を専門教育でもいかに取り入れるかが、英語・専門を問わず重要であると実感しました。
- ・最新の英語教育について知ることができたので、よい勉強になった。

項目 6. 本日の講演を聴いて、ご自身の授業に活かせることがあれば記述して下さい

- ・可能性を考えてみたい。
- ・海外の Youtube の活用をもっと広げることは ESP につながるような気がした。
- ・学生が興味を持てる授業構成にすることが大事であることを改めて認識した。
- ・幼児教育における英語レベルでの ESP 導入は比較的容易に感じましたが、工学分野の学生向けにどのようなことができるのか検討してみたいと思います。合わせて教える側の英語レベルも高めていく（これは個人的にですが）必要があると日々感じています。
- ・麻生先生に講義をしてもらいたい
- ・グループディスカッション。発表会など
- ・授業に活かせるところは活かそうと思います。
- ・受講者に興味を持たせるための工夫が活かせるのではと感じました
- ・すぐには思いつかないのでじっくり考えてみたいと思います。
- ・今回の内容は、英語科目として、専門に関する活動を取り入れた方向である。それは、どちらかというところ、テーマ選択の問題なので、ハードルがそれほど高くないと思う。専門教員側としては、逆の方向である。アクティブラーニングや、グループ活動など、興味ある活動が紹介されていたが、英語関連のことについて、自身の授業で直接生かせそうかというところ、難しいと思います。
- ・英語教育にとどまらない内容もあり、自分の教科の教授法の検討の際にも参考にします。
- ・まずはほんの少し問題演習に英語を取り入れたいと思います。
- ・応用は学科ごとに興味が異なることをあまり意識しないでやってみる。
- ・久しぶりに映画を使った授業もしてみたくなりました。
- ・学生に英語でオリジナル問題を作成させ、他の学生に解かせ、その後英語で解説をする。
- ・英語のデータシートを使って授業をする。取引相手が外国の会社という想定にして、そこから何かしらの依頼(課題)があり、それを解決するために実験を行う。という設定のもと実験を行う。
- ・これから、どのように適用できるか検討する段階です。
- ・興味を持ってもらうという視点で検討したいと思います。
- ・ゲーミフィケーションで英語を取り入れていきたいです。
- ・タイでの教育で日本語を学習させることにも役立つと感じました。
- ・現在の自身の授業に直接活かせるか分からない面があるが、今後の教育活動にはとても参考になりました。授業科目によって、英語学習の効果が高いものとあまり効果的でないものがあるはずなので、学校として、どういう科目で英語と連携するのが適切なのかを議論して、集中してより効果が上がるように実施することを検討すべきと感じました。

項目 7. 開催時期は適当でしたか

- ・適当であった：97%
 - ・その他の時期が良い：2%
- いつ頃が良いですか：年間計画をたてて実施頂ければいつでも大丈夫です。

項目 8. 今後の FD 研修会で取り上げて欲しいテーマやご希望、ご意見などがありましたらご記入下さい

- ・これからの実践が重要と感じました。
- ・よい企画だったと思います。
- ・レポートの評価におけるコピペ対策
- ・現在の高等教育の存在意味について、新しい視点での話が聞きたい。

- ・カリキュラムマネジメント
- ・専門の授業に英語を取り入れた実践（参加者が学生役）を体感してみたくまりました。
- ・成績不振学生に対する取り組み
- ・課外活動指導について

5. 令和3年度の活動に向けた各種委員会等への提言

令和2年度 各種委員会の活動状況の点検結果、学生との意見交換会、外部評価、卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査からの改善内容等の意見をもとに、各種委員会等への提言を以下に示す。

1. 教務委員会への提言

① 学力の向上と質保証に関して

- ・ 授業公開の中止は、コロナ禍においてはやむを得ない状況である。FD 研修会については、早いタイミングで実施することができ、これに伴って、円滑に遠隔授業を始めることが可能であった。
- ・ 校内学習塾による成績不振学生への対応もしっかりと取り組んでいる。対象を成績不振学生だけではなく、意欲のある学生に対しても実施することにも価値があるのではないかと思う。
- ・ CBT の活用については、試験を実施してはいるものの、結果を反映できているとは言えないため、引き続き、活用方法について議論していただきたい。

② 新型コロナウイルス対応について

- ・ 学事暦の弾力的な運用・改訂については、コロナ禍において重要な役割を担っているため、引き続き、状況に合わせて議論していただきたい。
- ・ 教室等での感染拡大防止に対しては、消毒の設置、換気の徹底等、対策はしっかりと行なわれている。
- ・ 登校停止になった際の対応に関しては、教員ごとに対応が異なる部分もあったため、学生間に混乱が生じる場面が見受けられた。より一層の研修が必要ではないかと考える。そのため、遠隔授業に関する研修会について、引き続き検討していただきたい。

③ 教員間の連携と協働教育の推進について

- ・ 科目間連携会議等は適宜実施されているものの、その効果を定量的に評価する方法について議論いただきたい。

④ 専攻科との連携について

- ・ 本年度は特に検討がされていないため、引き続き、専攻科との連携を強化できるよう議論を進めていただきたい。

2. 学生支援委員会への提言

- ・ 令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の状況のもと、通常の活動はかなり制限されたが、そのような状況の中で最善の取り組みを行ったと評価できる。新型コロナウイルスに対する対応は、この一年間の経験を踏まえ、より適切な取り組みが期待される。
- ・ 本校の近くに新しい道路が開通したため、交通安全指導のさらなる充実が求められる。また、アパート暮らしの学生への生活指導も必要と考えられる。
- ・ 低学年の卒業後の進路への意識が低い。新型コロナウイルスの感染拡大で中止となったOBによる講演の機会などを充実させてほしい。

3. 寮務委員会への提言

- ・ 桜風寮のシステムの構築について、対応が必要と思われる。
- ・ 桜風寮の施設面の充実の準備、対応が必要と思われる。
- ・ 入寮許可の年度更新対応の充実が必要と思われる。
- ・ 違反点の担任および保護者との共有が必要と思われる。

4. 専攻科運営委員会への提言

- ・ 入学者数の確保に関して、本科生への説明会、専攻科2年生のポスター発表のPRなど計画はあったものの、他との連携やコロナ対策により実施されなかったようである。入学者の確保に向けて、説明会など実施が望まれる。

5. 研究支援委員会

- ・ 科研費申請の情報提供はこれからも積極的に行ってもらいたい。
- ・ 申請書添削活動やその他の支援も引き続き、実施案件の増加を目指してほしい。

6. 広報企画室

- ・ 部門の活動が高専 PR・入試倍率の維持・優秀な学生の確保につなげる方法の検討。
- ・ 学科改組に伴う広報活動を、7月から開始できるよう早めに計画。

7. グローバル教育推進センター

- ・ グローバル教育推進センターでは、国際交流センター（重点項目1対応）、グローバルエンジニア育成センター（重点項目2対応）、タイ協働センター（重点項目3対応）の3センターが各々の重点項目に取り組んでいる。今年度はコロナ禍におけるインターネット活用を進め、取り組みを止めないという決意で各センター長のリーダーシップにより進めている。来年度も早々にはこの環境は改善されないと思われること、コロナ禍で教職員、学生がインターネットスキルを向上させることができたことを踏まえ、来年度以降も継続して、「インターネットを有効活用し、連携の強化」を進め、よりきめ細やかな心配りと、良好な関係の維持が必要である。

8. 教育改善委員会

- ・ 教育改善報告書の形式が変更され、前年度の教育改善委員会から提言した課題の検討・改善状況の点検が行われなくなった。この点件は、提言に対する改善状況を確認する上で必要であり、各委員会等の活動計画に織り込むなどして、継続して実施していただきたい。
- ・ 活動内容の点検が行われていない項目があり、実施が望まれる。

9. 男女共同参画推進室

- ・ 教職員アンケートの実績が必要である。
- ・ 女性教職員就業支援インターンシップの実績が必要である。